佐賀県文化財年報 17

2021 年度

2023.3

佐賀県地域交流部
文化・観光局　文化課　文化財保護室

例　言

1．本書は、令和３年度に佐賀県文化課文化財保護室及び佐賀県内の各市町の関係機関が実施した埋蔵文化財発掘調査、普及啓発事業等、文化財保護行政の概要についてとりまとめたものである。

2．本書を作成するにあたり、佐賀県及び県内各市町の関係機関、並びに各文化財担当の御理解と御協力をいただいた。深く感謝する次第である。

3．本書には、令和３年度に佐賀県内において実施された発掘調査のうち、主に記録保存を目的として行った発掘調査（本調査）と、史跡整備や学術調査を目的として行った確認調査の概要について掲載している。

4．本書は、佐賀県及び県内各市町の関係機関の各担当者が執筆した原稿をもとに、文化財保護室文化財指導担当が編集したもので、各執筆者の氏名は、各々の文章の末尾に記載している。

5．指定・登録等文化財に係る記載については、各指定資料に依拠した。

6．標高の標記方法や遺構の表現方法、言い回しの統一などのため、原稿の内容を一部改変した箇所があるが、これらの文責は編集者に帰するものとする。

目　次

1　文化財保護室の組織と文化財保護の体制
（1）文化財保護室の組織…… 1
（2）佐賀県文化財保護審議会委員…… 2
（3）佐賀県文化財保護指導委員（文化財全般）
…… 2
（4）佐賀県文化財保護指導委員（窯跡担当）
…… 2
2　事業の内容
（1）文化財保護体制と埋蔵文化財活用事業… 3
①佐賀県における文化財保護体制 …… 3
②文化財保護審議会の運営 …… 4
③文化財パトロールの実施 …… 4
④文化財保護強調週間の実施 …… 4
⑤第 68 回文化財防火デー …… 4
⑥天然記念物カササギ生息地保護増殖事業
…… 5
⑦銃砲刀剣類登録事務 …… 5
⑧吉野ヶ里遺跡保存活用事業 …… 5
⑨吉野ヶ里遺跡に係る普及啓発活動 …… 5
1）弥生ロマン体験事業 …… 5
2）吉野ヶ里展示室企画展 …… 5
3）地域の特色ある埋蔵文化財活用事業
…… 6
⑩「さがヲほるー佐賀県発掘成果速報展 2021
ー」の開催 …… 7
（2）文化財普及啓発活動…… 9
①「発見 50 年　土生遺跡―日韓を繋ぐ弥生時代　の大規模集落―」 …… 9
②「綺羅、星の如くー戦国の雄、肥前名護屋参陣ー」…… 10
③「磯道遺跡出土石器接合資料と磯道技法」(唐津市) …… 11
④「石鍋と中世の唐津」(唐津市) …… 11
⑤「横穴式石室導入の時代　―唐津市域の五世紀―」(唐津市) ……12
⑥からつの「記念物１００年」展 (唐津市)
…… 13
⑦国史跡 勝尾城筑紫氏遺跡見学会の開催 (鳥栖市)…… 14
⑧企画展の開催 (鳥栖市)
・第 1 回「わたしたちのまち、とすの 7 つのナゾ」 …… 14
・第 2 回「令和の発掘速報展」 …… 14
⑨腰岳黒曜石シンポジウム (伊万里市) …… 15
⑩鍋島焼調査研究発表会 (伊万里市) …… 16
⑪土生遺跡発見 50 年記念事業「発見 50 年土生遺跡」特別展 (小城市) …… 17
⑫土生遺跡公園まつり 2021(小城市) …… 18
（3）開発事業と文化財保護の調整…… 19
（4）文化財の調査 (埋蔵文化財発掘調査)…… 20
①1～3.　藤三郎屋敷遺跡 D・F・G 区 …… 22
②名護屋城跡水手通路（特別史跡 名護屋城跡並陣跡)…… 24
③名護屋城跡弾正丸東下（特別史跡 名護屋城跡並陣跡)…… 24
④島津義弘陣跡（特別史跡 名護屋城跡並陣跡)…… 25
⑤宇木汲田遺跡 (唐津市) …… 26
⑦本川原遺跡 6 区 …… 27
⑧鎮西山城跡 …… 29
⑨一反原遺跡 2 区 …… 31
⑩大園遺跡 5 区 …… 32
⑪二の幡遺跡 …… 33
⑫ . 一の幡遺跡…… 34
3　令和 3 年度の指定・登録等文化財一覧
国指定有形文化財 (建造物)
願正寺本堂ほか 5 件 …… 35
国登録有形文化財 (建造物)
旧枝梅酒造店舗兼主屋 …… 36
県重要文化財 (絵画)
鍋島直大像　百武兼行筆　1 面 …… 37
国登録有形文化財 (典籍)
東遊歌風俗歌譜　1 巻 …… 37
国登録有形文化財 (建造物)
石造肥前鳥居　1 基 …… 38
国登録有形文化財 (考古資料)
磯道遺跡出土石器接合資料 7 個体 …… 39
4　所載遺跡位置図 …… 40

１．文化財保護室の組織と文化財保護の体制（令和３年度）

（1）文化財保護室の組織

佐賀県文化課 文化財保護室　　〒 840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目１－59（新館６階）

係名及び職名		氏　名	主　な　所　管　業　務
室　長		白木原　宜	室の総括
副　室　長		古川　直樹	室長の補佐（文化財指導・管理関係）
副　室　長		細川　金也	室長の補佐（文化財調査･吉野ヶ里関係）、文化財調査担当の総括、西九州自動車文化財調査の総括、文化財資料室・横武収蔵庫の総括
副　室　長		右寺　直樹	室長の補佐
文化財指導担当	係　長	長﨑　浩	管理担当の総括、文化財保存活用大綱、九年庵保存活用計画、文化財保護審議会の総括
	係　長	渡部　芳久	指導（埋蔵）担当の総括、重要遺跡の調査・保存・指定　市町教育委員会への指導・支援
	主任主査	小野　将史	県費補助金事務、有形文化財関係（第１部会）、国・県重文等建造物・重伝建地区修理関係、登録有形文化財（建造物）関係
	主任主査	加藤　裕一	文化財保護法事務の総括、「名護屋城跡並陣跡」保存活用計画、国土交通省所管事業に係る文化財調整
	主任主査	野畑　征希	文化財保護法・条例に基づく諸手続事務、佐賀県歴史の道調査事業、カササギ保護、名勝・天然記念物関係（第４部会）
	主任主査	藤井　祐介	文化庁派遣 (R3.4.1 ～ R4.3.31)
	主　事	樋口 秀信	国･県所管事業（土木･農林）に係る文化財調整、公立学校建設事業に係る文化財調整、近代化遺産、佐賀県遺跡地図
	主　事	岩永　亜季	国庫補助金事務、表彰・叙勲事務、民俗・無形文化財関係（第２部会）
	主　事	土井 翔平	文化財保護法に基づく文書事務及び市町教育委員会（西部）への指導・調整、確認調査（農業基盤整備事業等）、第３部会
	主　事	大坪　孝人	銃砲刀剣類登録、文化財保護指導委員に関すること、国指定文化財管理費補助事務（防災保守点検）、名勝・天然記念物関係（第４部会）
	主　事	末光　博史	文化財保護法に基づく文書事務及び市町教育委員会（中部）への指導・調整、文化財年報作成、確認調査（佐賀道路等）
文化財調査担当	係　長	市川　浩文	佐賀道路文化財調査の総括、有明海沿岸道路文化財調査の総括
	主任主査	竹川　満	佐賀道路文化財調査に関すること、有明海沿岸道路文化財調査に関すること
	主任主査	村松　洋介	西九州自動車道文化財調査に関すること、佐賀道路文化財調査に関すること
	主　査	小松　譲	文化財調査研究資料室・横武収蔵庫に関すること、西九州自動車道文化財調査に関すること
	主　査	越知　睦和	佐賀道路文化財調査に関すること、文化財調査研究資料室・横武収蔵庫に関すること
吉野ケ里遺跡担当	係　長	川副麻理子	吉野ヶ里遺跡の活用に関する総括、地域の特色ある埋蔵文化財活用事業、出土資料管理
	係　長	渋谷　格	吉野ヶ里遺跡調査・管理に関する総括、現状変更、日吉神社移転、吉野ヶ里博物館・展示施設整備
	係　長	北原　清子	文化財保護室予算全般（予算・決算）に関すること、監査・会計検査、総務事務に関する総括
	主任主査	熊谷　吉朗	吉野ヶ里遺跡の活用に関すること、弥生ロマン体験事業、吉野ヶ里遺跡画像等の申請・許可
	主　事	塩見　恭平	吉野ヶ里遺跡調査、調査事務所の管理・運営、出土資料・調査記録類の整理、発掘調査報告書の作成
	主　事	大塚 小百合	文化財保護室の歳入に関すること、予算執行管理に関すること、財産管理に関すること、その他総務事務に関すること
吉野ケ里遺跡展示室	会計年度任用職員	田中 健治郎	吉野ヶ里遺跡展示室管理　体験学習
	会計年度任用職員	大坪　ゆか	吉野ヶ里遺跡展示室管理　体験学習
	会計年度任用職員	篠原　千枝	吉野ヶ里遺跡展示室管理　体験学習
	会計年度任用職員	古川　智美	吉野ヶ里遺跡展示室管理　体験学習
	会計年度任用職員	藤山　直美	吉野ヶ里遺跡展示室管理　体験学習

（2）佐賀県文化財保護審議会委員（任期：令和３年４月１日 ～ 令和５年３ 月 31 日）

部会	専門分野等	氏名	現職名
会　長	学 識 経 験 者	兒玉 浩明	佐賀大学学長
第 1 部 会	絵 画・彫 刻	井手 誠之輔	九州大学大学院教授
	建　造　物	伊東 龍一	熊本大学大学院教授
	近 代 美 術	吉住 磨子	佐賀大学教授
	歴 史 資 料	伊藤 昭弘	佐賀大学教授
	美 術・工 芸	野口 朋子	昭和音楽大学講師
第 2 部 会	民 俗 芸 能	金子 信二	前佐賀民俗学会副会長
	工　　芸	西田 宏子	根津美術館顧問
	デ ザ イ ン	辻嶋　寿憲	九州産業大学造形短期大学部教授
第 3 部 会	史跡・埋蔵文化財	重藤　輝行	佐賀大学教授
	〃	渡 辺　芳 郎	鹿 児 島 大 学 教 授
	〃	宮元 香織	北九州市立自然史・歴史博物館学芸員
第 4 部 会	植　　物	三島　美佐子	九州大学総合研究博物館准教授
	名　　勝	藤田　直子	筑波大学教授

（3）佐賀県文化財保護指導委員（文化財全般　任期：令和３年４月１日 ～ 令和４年３ 月 31 日）

氏　　名	担当地区 (市町)	氏　　名	担当地区 (市町)
久保山　彰	基山	本村　昌敏	江北・大町・白石 (有明・白石・福富)
黒田　達也	鳥栖	草場　敦宏	武雄 (武雄・山内・北方)
蔵戸　秀章	みやき (中原)	三ヶ尻　登志彦	有田 (有田・西有田)
田中　淳	上峰・吉野ヶ里 (東脊振・三田川)	川原　豊	唐津 (浜玉・厳木・相知・北波多)
杉山　珠巳	神埼 (神埼・千代田)	紫藤　芙美	唐津 (唐津)
堤　安信	佐賀 (三瀬・富士・大和)	濱口　尚美	唐津 (呼子・鎮西・肥前)・玄海
横尾　昭信	佐賀 (佐賀・諸富・川副・東与賀・久保田)	池田　章	鹿島・太良
香月　浩	小城 (小城、三日月、牛津、芦刈)	佐々木　忠俊	嬉野 (嬉野・塩田)
向　喜一郎	多久	岩永　茂人	伊万里

（4）佐賀県文化財保護指導委員（窯跡担当　任期：令和３年４月１日 ～ 令和４年３ 月 31 日）

氏　　名	担当地区 (市町)		氏　　名	担当地区 (市町)	
小笠原　博	伊万里	大川内山	山下　利男	武雄	板川内　筒江
本山　吉宣	伊万里	椎ノ峰	山口　増広	嬉野	内野山　不動山
溝上　良博	伊万里	堤ノ川	藤川　孝司	唐津	岸嶽
丸田　延親	武雄	黒牟田	吉永　勝	有田 (西有田)	
古賀　末廣	武雄	川古	吉永　登	有田	
久保　正敏	武雄	弓野	大串　和夫	有田	

2　事業の内容

（１）文化財保護体制と文化財普及啓発活動

①　文化財保護体制の整備

開発に対応する文化財保護行政の確立と普及啓発事業の充実強化を図るため、県文化財保護室では埋蔵文化財をはじめ、有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物等の破壊・滅失・毀損等の防止・活用の促進に努めるとともに、市町に対しては、市町文化財保護条例に基づく指定の促進及び文化財保護体制の整備及び強化を促しているところである。

市町における文化財専門職員は、平成３年３月末で 10 市８町に配置されており、総数は 73 名である。

下表は、令和３年３月末時点での、市町教育委員会文化財専門職員の一覧である。

市町名称	職員氏名	市町名称	職員氏名	市町名称	職員氏名
佐賀市	木島　愼治	唐津市	黒田　雄一	小城市	永田　稲男
	角　信一郎		岩尾　峯希		大田　正和
	松本　隆昌		草場　誠司		本村　浩二
	楠本　正士		美浦　雄二		前田　佳奈子
	西田　巌		米倉　美和子		大橋　隆司
	中野　充		松尾　真理帆	嬉野市	輪内　遼
	権丈　和徳		坂井　清春	吉野ヶ里町	河野　竜介
	大平　直子		立谷　聡明		古賀　静夏
	井上　美鈴		鮎川　和樹	基山町	松尾　法博
	山口　一郎		築城　昇平		坂井　貴志
	三代　俊幸		井本　吏沙	上峰町	原田　大介
	山口　亨	鳥栖市	久山　高史		松浦　智
	馬場　昌平		島　孝寿		伊達　有彩
	谷澤　仁		湯浅 満暢	みやき町	大田　睦
	南　貴匡		内野　武史		豊嶋　輝彦
	馬場　彩香		大庭　敏男		久保田　陽香
	佐藤　正義		上田　恵（小郡市から派遣）	有田町	村上　伸之
	佐藤　徳彦		岡田　春菜（小郡市へ派遣）		伊達　惇一朗
	川上　高志		藤岡　怜史	大町町	岩永　憲二郎
多久市	高塚　啓介	鹿島市	加田　隆志	江北町	西村　秀昭
	岩永　雅彦	神埼市	桑原　幸則	白石町	渡部　俊哉
伊万里市	船井　向洋		島　佑輔		米田　実
	一本　尚之		髙柳　信敏		宮本　聖子
	久保　伸洋				
武雄市	樋渡　拓也				
	松瀬　京子				
	戸田　龍蔵				

② 文化財保護審議会の運営

県の諮問に応じて、佐賀県文化財保護条例に規定する事項、その他文化財の保存や活用についての重要事項について調査・審議し、その内容について県に答申された。

1）審議会の開催

令和３年８月 ２日 第５回文化財保護審議会： 令和３年度文化財保護行政･保護事業に関する説明、県指定文化財の指定の諮問

令和４年３月 17 日 第６回文化財保護審議会：令和３年度文化財保護行政･保護事業に関する報告、県指定文化財の指定の審議・答申及び佐賀県文化財保護条例の一部改正について説明

2）審議会各部会の開催

部　会	開　催　日	内　　容
第１部会	令和３年８月２日	県内の有形文化財（考古資料を除く）及び有形民俗文化財に関する県文化財指定候補の検討・調査・確認等
	令和３年 12 月 23 日	
第２部会	令和３年８月２日	県内の無形文化財及び無形民俗文化財に関する県文化財指定候補の現地調査・確認等
	コロナ感染症対策のため中止	
第３部会	令和３年８月２日	県内の史跡・埋蔵文化財及び考古資料に関する県文化財指定候補の検討・調査・確認等
	令和３年 11 月 25 日	
第４部会	令和３年８月２日	県内の名勝及び天然記念物に関する県文化財指定候補の検討・調査・確認等
	令和４年２月 15 日	

③文化財パトロール

文化財保護指導委員（一般 18 名、窯跡 12 名、計 30 名）が、県内各地域を分担し、国・県の指定文化財、埋蔵文化財包蔵地を定期的に巡視し、文化財の滅失・毀損の防止にあたるとともに、市町の文化財担当職員と連携し、文化財に対する地域住民の理解と認識を深める啓発活動を推進した。また、文化財保護指導委員会議を２度 (令和３年４月 20 日、令和３年 12 月 17 日) 開催し、当該年度の文化財保護事業概要の説明や、委員の文化財保護･普及啓発についての理解の促進、文化財パトロール結果報告、生じた課題とその対策の共有化を図った。

④ 文化財保護強調週間の実施（11 月 1 日～ 7 日）

11 月 1 日～ 7 日は、第 68 回文化財保護強調週間にあたり、県及び県内各市町において、文化財関連の探訪会、講座、特別展示会等が実施された。

県においては、名護屋城博物館で企画展「綺羅、星の如くー戦国の雄、肥前名護屋参陣ー」、九州陶磁文化館で企画展「寄贈名品 100 選ー肥前からアジアの陶磁器までー」をそれぞれ開催した。

また各市町においては、佐賀市で企画展「縄文の食文化ー佐賀の自然と縄文人の生業ー」、多久市で「肥前狛犬のかたち」展、伊万里市で「近世の陶美　鍋島展」、江北町では展示発表会が開催されるなど、展示会を中心に多種多様な啓発活動が実施された。

⑤ 第 68 回文化財防火デー（令和４年１月 26 日）

昭和 24 年 1 月 26 日に法隆寺金堂外陣の壁画『西方阿弥陀浄土図』が焼失したことから、この日を「文化財防火デー」とし、文化財を火災から守るための取り組みが全国的に展開されている。

本年度は新型コロナウイルス感染症まん延防止の観点から、大がかりな防災訓練は実施されず、市町教育委員会や文化財の所有者により、広報活動を中心に、消防設備点検・防災指導等が実施された。

⑥ 天然記念物カササギ生息地保護増殖事業

近年、営巣域の拡大に伴い営巣密度に増減が生じたため、「数が減っていないか」と心配する声が寄せられているカササギについて、４月～６月下旬を中心とする繁殖期に巣より落下したカササギの幼鳥の保護を行なった。本年度の落下した幼鳥数は 11 羽であり、県施設敷地内に設置したプレハブ内にて飼育し、回復した９羽について放鳥した。

⑦ 銃砲刀剣類登録事務

銃砲刀剣類所持等取締法及び佐賀県銃砲刀剣類登録審査委員に関する規則の定めるところにより、登録審査委員３ 名、登録審査補助員 1 名を任命し、年間６回、奇数月においての審査会を開催した。令和３年度の実績は、新規登録 66 件、登録証再交付 20 件、美術刀剣類製作承認 2 件であった。

また、所有者変更受理・通知は年間 544 件、登録の照会・回答は年間 330 件、警察の捜査関係照会・回答数については年間 51 件であった。

⑧吉野ヶ里遺跡保存活用事業

吉野ヶ里遺跡の未調査地区の中で、重要な調査成果が期待でき、その調査成果を基にした整備、活用により吉野ヶ里遺跡の価値をさらに高め、その成果を県民に還元できる可能性が高い日吉神社境内地 (4,209㎡) を公有化した。これにより、令和４年度から確認調査を行い、公園整備の基礎資料を得るとともに、調査成果を遺跡の活用に生かすことが可能となった。

⑨吉野ヶ里遺跡に係る普及啓発活動

吉野ヶ里遺跡の魅力を広く伝えるとともに、特別史跡吉野ヶ里遺跡について理解を促すための普及活動を行っている。

1）弥生ロマン体験事業

毎年、県内小中学生を対象に、次世代の文化財保護を担う子供たちが、弥生時代の技術を体験することで、考古学への関心や吉野ヶ里遺跡への理解を深めて貰うことを目標に、吉野ヶ里遺跡展示室及び展示室西側芝生広場（吉野ヶ里歴史公園内）周辺で勾玉づくりを体験する弥生ロマン体験事業を行っている。

令和３年度は、コロナ渦による様々な規制の中、県内の小中学校 66 校が参加し、2,800 名の児童生徒が勾玉づくりを体験した。生徒たちからは、形の良し悪しや、石の一部に微妙に現れる色に、感嘆の声か聞かれた。

2）吉野ヶ里展示室企画展

展示室の企画展示コーナーにおいて、吉野ヶ里遺跡の出土遺物や復元品を用いて、季節ごとに年間４回程度の展示会を開催している。

春季は、令和３年４月 29 日～７月 25 日にかけて、弥生時代の食生活に焦点を当てた企画展「弥生の食卓　－吉野ヶ里人の食生活－」を開催した。展示品には、遺跡内から出土した動物の骨や貝殻など当時の食卓に上がったものとともに、人々が食べ物を得るためや料理をするために使っていた道具類を抽出して紹介した。ゴールデンウィーク期間を含んだこともあり、全国各地からの家族づれで賑わい、18,869 名の見学者があった。

続く夏季は、令和３年７月 28 日～９月 15 日にかけて、弥生時代のファッションに焦点を当てた企画展「－弥生時代の華麗なる装い－」を開催し、吉野ヶ里遺跡出土の勾玉や貝製腕輪のほか、周辺遺跡出土の玉や､復元された衣装を展示した。弥生人のファッションセンスに 6,966 名が魅了された。

秋季は、地域の特色ある埋蔵文化財活用事業で実施した吉野ヶ里遺跡調査成果報告会に合わせて､令和３年９月 18 日～ 12 月５日にかけて、現在整理作業をすすめている出土遺物を用いた企画展「肥前国の古代寺院　－辛上廃寺跡の調査成果速報－」を開催した。吉野ヶ里遺跡出土の瓦類、土器類を中心に、肥前国内各所に造営された寺院についても出土遺物を展示し、紹介した。古代の吉野ヶ里にも大規模な寺院遺構が展開していることに 33,084 名が驚嘆した。

展示状況

冬期は、地域の特色ある埋蔵文化財活用事業で YouTube 配信したシンポジウム「弥生人青銅器と出会う－朝鮮半島から吉野ヶ里、近畿へ」と合わせて令和４年１月 19 日～４月 24 日にかけて、企画展「弥生人青銅器と出会う－吉野ヶ里での青銅器の始まり－」を開催した。出現期の青銅器に焦点を当て、新しいアイテムである青銅器に対して、当時の人々がどのような対応を見せたのかについて、吉野ヶ里遺跡出土品 (複製品) のほか、前期に遡る可能性のある青銅器関連資料を展示して解説した。青銅器を初めて手にした弥生人同様、高度な技術力に 21,116 名が衝撃を受けた。

3）地域の特色ある埋蔵文化財活用事業

吉野ヶ里遺跡に関連する講演会を２度に亘って開催し、それぞれのテーマに則した企画展示を吉野ヶ里展示室で開催した。また、吉野ヶ里遺跡を理解し、親しんでもらうための体験イベント「弥生まつり」も展示室及び吉野ヶ里歴史公園で開催した。

講演会開催状況

１回目は、吉野ヶ里遺跡発掘調査成果報告として、令和３年 10 月 10 日に地元、吉野ヶ里町商工会館講習会場にて講演会「辛上廃寺跡－奈良･平安時代の吉野ヶ里遺跡－」を開催した。講演に当たっては、かねてより吉野ヶ里遺跡の

調査指導をお願いしている岡山理科大学　亀田修一教授に「都の寺、筑紫の寺、そして肥前辛上廃寺」と題して基調講演いただき、吉野ヶ里遺跡担当の塩見より「古代の吉野ヶ里遺跡－辛上廃寺跡の発掘調査成果－」として報告し、近年の類似する調査例として広島県三次市教育委員会文化と学びの課の藤川翔 氏に「広島県三次市寺町廃寺跡の調査」 と題して報告いただいた。弥生時代のみならず、吉野ヶ里の古代にも関心がある 55 名が県内外より駆けつけ、熱心に耳を傾けていた。

２回目は吉野ヶ里遺跡地域研究成果報告として、令和 4 年 1 月 30 日にシンポジウムを実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症まん延防止の観点から対面開催を断念し、事前に録画したものを佐賀県公式 YouTube にて「弥生人　青銅器と出会う－朝鮮半島から吉野ヶ里、近畿へ」と題して動画配信 (「SagaKouhouMovie」 https://www.youtube.com/user/SagaKouhoumovie) を行った。録画に当たっては、弥生時代の青銅器研究の第一人者で、これまで吉野ヶ里出土の青銅器関連資料についても度々指導いただいている愛媛大学ミュージアムの吉田広教授に「日本列島における青銅器文化の始まりと特色」と題して基調講演いただき、吉野ヶ里遺跡担当の村松と渋谷によりそれぞれ「朝鮮半島における青銅器文化の様相と特色」、「吉野ヶ里遺跡における青銅器の出現」と題して研究成果を発表し、「近畿地方の青銅器生産の始まり」について茨木市立文化財資料館の清水邦彦氏に講演いただいた。その後は、九州大学の田尻義了准教授をコーディネーターに迎え、発表者 4 名により、日本列島に青銅器生産はいつから定着したのか？、その技術的な特徴は何か？などの論点について活発なディスカッションを行った。これまで約 1,000 名が視聴している。

狩り体験

調査成果報告や地域研究の成果を発表する講演会とは雰囲気を替えて、吉野ヶ里遺跡の理解を深め、親しんでもらうための「弥生まつり」を、令和 4 年 3 月 19 日、20 日の両日に亘って開催した。まつりの催しものとして、吉野ヶ里遺跡に関するナゾを制限時間内に解き、エリアからの脱出を目指す「脱出ゲーム」、吉野ヶ里展示室職員渾身の作であるイノシシとクマの模型に向かって矢を射る「狩り体験」、割れた壺や碗を接着剤を用いて復元する出土遺物整理作業を、素焼きの土器で追体験できる「レプリカ土器復元体験」の３コーナーを用意した。当日は小雨降るあいにくの天気にもかかわらず、参加賞として配布した吉野ヶ里展示室オリジナル缶バッチと販売直前のオリジナルポストカードを、満面の笑みと共に 428 人が手にした。

⑩「さがヲほる－佐賀県発掘成果速報展 2021 －」の開催

県内で実施された最新の発掘調査成果について、平成 28 年 (2016 年) 度より「佐賀県発掘調査成果速報」展を開催し公開してきたが、令和 3 年度は装いも新たに「さがヲほる」と題して、県内の発掘調査で出土した資料に加えて、文化財担当職員の研究によって新たに分かった最新の成果なども含めて、6 月 19 日 (土曜日) から 7 月 18 日 (日曜日) まで、佐賀県立博物館において開催した。主な展示品は、最新資料として鳥栖市門戸口遺跡出土の刻書紡錘車、上峰町鎮西山 (ごまかい) 城跡出

土の陶磁器片、名護屋城並陣跡出土の獣面鬼瓦や玉石を公開し、新たな知見を得た資料として、唐津市谷口石切丁場の矢孔の型取シリコンと矢 (くさび)、吉野ヶ里町西ノ田遺跡の墨書土器 (則天文字) 等を展示、紹介した。その他、調査員のオススメとして神埼市城原三本谷南遺跡の卒塔婆や蛇型木製品、みやき町原古賀三本谷遺跡の勾玉鋳型、伊万里市や小城市など県内各所から出土した権 (おもり)9 点も併せて紹介した。開催期間中には 4,430 人が来場し、初めて見る出土品の数々に目を輝かせた。

「ふかぼり」開催状況

講演会開催状況

また、6 月 20 日 (日曜日) には佐賀県立美術館ホールにて「さがヲほる発表会」を開催し、発掘担当者 4 名による調査内容の報告のほか、佐賀大学重藤教授による「佐賀の古代の交通」について講演も行われ、80 人が時間を忘れて聞き入った。さらに、6 月 20 日、7 月 4 日、7 月 18 日に開催した展示会場内で文化財担当職員が展示品の解説等を行うギャラリートークには 120 人が駆けつけ、6 月 27 日、7 月 11 日に開催した職員が思い入れのある資料について熱く語る「さがヲほる　ふかぼり」では、75 人が熱意に圧倒された。

（2）文化財普及啓発活動

①発見50年　土生遺跡―日韓を繋ぐ弥生時代の大規模集落―

【展示会場】 佐賀県立博物館・美術館
【開催期間】 令和３年８月27日～令和３年10月17日
【展示概要】

本展覧会は、佐賀平野に営まれた弥生時代を代表する集落遺跡である土生遺跡の発見50年を記念して、小城市教育委員会と共催で開催した企画展である。

土生遺跡は、昭和46年（1971年）８月に石炭鉱害復旧工事の際に偶然発見され、佐賀県教育委員会と三日月町教育委員会（現小城市教育委員会）によって発掘調査が実施された。発掘調査では、住居跡や多数の木製品、土器、石器などが発見され、豊富な木製農具が出土したことから、「日本国内における初期農耕文化の実相を知るうえで重要な遺跡」として昭和48年（1973年）に国史跡に指定されている。

土生遺跡は、これまで20次にわたって発掘調査が実施されている。弥生時代中期の牛角把手付壺や粘土帯土器などの朝鮮系無文土器や青銅器鋳型、木製農具（踏鋤（タビ）など）といった朝鮮半島との交流を示す遺物が多く出土している。これらの朝鮮半島系遺物は、隣接する仁俣遺跡や久蘇遺跡でも出土しており、佐賀平野における初期の日韓交流の様相を示す遺跡として極めて重要な意味を有している。

今回の展覧会では、土生遺跡出土の遺物を中心に、小城市域の縄文時代晩期から弥生時代後期の遺跡から出土した遺物を展示し、小城市域の弥生時代遺跡を総覧した。会期中には、博物館美術館セミナーとして担当学芸員による講座を行ったほか、愛媛大学の吉田広教授による「土生遺跡が語る青銅器文化のはじまり」と題した講座も実施している。なお、期間中の観覧者は、6,763名であった。
(渕ノ上　隆介)

土生遺跡展展示風景

②「綺羅、星の如く－戦国の雄、肥前名護屋参陣－」

【展示会場】佐賀県立名護屋城博物館展示室
【展示期間】令和３年９月１７日～令和３年１１月７日
【展示概要】

およそ４３０年前、国内統一を成し遂げた豊臣秀吉は、かねてより構想を抱いていた大陸への侵攻（「唐入」）を具現化し、朝鮮半島へと出兵する。「文禄・慶長の役」と呼ばれるこの戦争では、肥前名護屋（佐賀県唐津市）の地に国内の軍事拠点が設けられ、名護屋城周辺には戦国の世を戦い抜いた数多の大名・武将が日本各地から参陣し、１５０ケ所を超える陣屋が立ち並んだ。その中には、天下人の秀吉はもとより、徳川家康、前田利家、毛利輝元、上杉景勝、直江兼続、石田三成、加藤清正、黒田長政、伊達政宗、鍋島直茂、立花宗茂、真田昌幸、真田信繁（幸村）ら時代を彩った名だたる戦国の雄が「綺羅、星の如く」居並んでいた。今回の企画展では、これらの大名・武将を象徴する資料を一堂に展示するとともに、発掘調査等によって明らかとなった諸大名陣屋の様子を紹介し、日本史上類を見ない政治・経済・文化のるつぼと化した「肥前名護屋」の姿を発信した。

展示品は４２件８２点（うち国宝１件１点、国重要文化財３件５点、佐賀県重要文化財２件２点）であり、主な展示資料は、各大名・武将の肖像画をはじめ、豊臣秀次朱印状（国宝「上杉家文書」・米沢市上杉資料館蔵）、伊達政宗自筆書状（重要文化財「伊達家文書」・仙台市博物館蔵）、豊臣秀吉自筆書状（重要文化財「毛利家文書」・毛利博物館蔵）、加藤清正や立花宗茂所用の甲冑として著名な白檀塗蛇の目紋蒔絵仏胴具足 附 蛇の目紋長烏帽子形兜（本妙寺蔵）、鉄皺革包月輪文最上胴具足（立花家史料館蔵）などであった。

また、企画展に関連して、女優の村井美樹氏による開催記念トークショー（９月１８日・参加者９８名）や、城郭考古学者の千田嘉博氏による記念講演会「綺羅、星の如く－名護屋城の陣からみた武将たち－」（１０月１７日・参加者２５０名）、などのイベントを開催した。(都留　慎司)

展示室の様子

③「磯道遺跡出土石器接合資料と磯道技法」(唐津市)

【展示会場】唐津市末盧館
【展示期間】令和３年５月１８日～令和４年３月２７日
【展示概要】

磯道遺跡展　展示状況

磯道遺跡は昭和５８年に発掘調査が行われ、旧石器時代から縄文時代にかけての遺構・遺物が確認されており、その後の整理を経て、平成１３年に石器接合資料の１０個体が旧肥前町の重要文化財として指定を受け、合併後、唐津市重要文化財として指定されていた。

このうち７個体の石器接合資料は後期旧石器時代の石器獲得技法を示す接合資料として評価され、令和３年５月１１日、県重要文化財に指定された。このことから新しく県重要文化財として指定されたことを記念して、令和３年５月１８日から令和４年３月２７日まで、古代の森会館展示室で展示を行った。開催期間中は、延べ４１７人に展示をご観覧頂いた。(鮎川和樹)

④「石鍋と中世の唐津」(唐津市)

【展示会場】唐津市末盧館
【開催期間】令和３年９月２２日～令和４年３月２７日
【活動概要】

展示状況

石鍋とはかつて長崎県西彼杵半島で生産・流通していた製品である。この石鍋は中世期には広く全国に流通しており、唐津市内の中世遺跡でも出土している。展示では唐津の中世遺跡から出土した石鍋を中心に、石鍋とともに国内流通した土器・陶器の紹介や石鍋が出土した遺跡の性格を示す鍛治関連遺物の出土遺跡の分布を紹介した。

この展示によって、唐津市内における石鍋の流通状況の一端を明らかとするとともに唐津における国産土器・陶器の流通について紹介することができた。展示は末盧館で行い、開催期間中は、延べ９５５人に展示をご観覧頂いた。(鮎川和樹)

⑤「横穴式石室導入の時代　―唐津市域の五世紀―」(唐津市)

【展示会場】唐津市末盧館、浜玉公民館歴史資料室
【展示期間】令和３年 10 月５日～令和４年２月６日
【展示概要】

本展示は、令和３年が谷口古墳と横田下古墳の史跡指定からそれぞれ 80 年、70 年にあたることから、唐津市域の４世紀後半から５世紀にかけての古墳に焦点を当てたものである。この時期の唐津市域では、最初期の横穴式石室が見つかっていることと、極小規模な墳墓にまで横口が導入されることが大きな特徴としてあげられる。この時期の古墳を出土品から探る展示を行った。

展示は初の試みとして２か所の会場で行い、さらに末盧館の展示は前半と後半で展示品を入れ替えた。前半は、中原遺跡や横田下古墳及び学校東古墳群の出土品を中心に、後半は中原遺跡や衣干古墳群の出土品及び市内出土の古墳時代銅鏡を中心に展示を行った。浜玉公民館歴史資料室では谷口古墳の原寸大石室レプリカ及び副葬品のレプリカの展示を行った。来館者は 515 名であった。

また横田下古墳の石室の特別公開も実施した。特別公開は展示期間内に行う予定であったが延期し、展示期間外の春先に実施した。参加者は 12 名であった。

これまで唐津市内では、古墳時代の資料について展示する機会があまりなかったため、知られていない資料が非常に多い。そのため本展示は非常に良い契機となったものと思われる。（美浦雄二）

横穴式石室導入の時代展

横田下古墳石室特別公開の様子

⑥からつの「記念物（きねんぶつ）１００年」展 (唐津市)

【展示会場】唐津市北城内１番８号　西ノ門館１Ｆ展示室
【展示期間】令和４年１月１３日（木）～令和４年３月１３日（日）
【展示概要】
　会期延長：令和４年３月１６日（水）～令和４年１０月２日（日）
本展示は、現在の文化財保護法の前身の一つである、史蹟名勝天然記念物保存法の成立（１９１９年）から令和元年（２０１９）で１００年を迎えたことを記念し、文化庁が企画した「記念物１００年」事業への参画事業として、第１～４章の４部構成で実施した。
　実際の展示企画にあたっては、第１・２章において、唐津市内に存在する記念物（史跡・名勝・天然記念物）を改めて紹介し、唐津市内の各記念物の位置を地図や一覧表で示すとともに、写真掲示も行った。
　第３章では、昭和２年（１９２７）に行われた『新日本八景』の全国投票や、鉄道網の発達などにより、約１００年前の大正末～昭和初期に盛り上がった、旧跡・名所・伝承の掘り起こしや、観光ＰＲの動きについても、当時の写真絵葉書や観光パンフレットなどによって概説した。
　最後の第４章では、「記念物１００年」事業のコンセプトの一つである「次の１００年に向けて～文化財を活かし伝える～」について触れる中で、行政としての文化財保護が確立する以前は、昭和２年に発足した松浦史談会の方々の熱意によって唐津・東松浦地域の記念物（文化財）が、啓発・保護されてきたことによって、１００年後の今を生きる自分たちに記念物が残されていることを概説した。
　企画展は、元々３月１３日までを予定していたが、展示の内容的に、より長い期間展示し、多くの市民や観光客に拝見していただくべきものであると考え、展示期間を約半年延長し、１０月２日まで開催を行った（立谷聡明）。

展示状況

展示状況

⑦国史跡 勝尾城筑紫氏遺跡見学会の開催 (鳥栖市)

・「春の見学会」

【開催日】令和３年４月 18 日（日）
【概　要】「葛籠城跡の見学」
【参加者】45 名

・「秋の見学会」
【開催日】令和３年 11 月 27 日（日）
【概　要】
「葛籠城跡・発掘調査地点の見学」
参加者：35 名

秋の見学会（葛籠城跡）

⑧企画展の開催 (鳥栖市)

・第１回「わたしたちのまち、とすの７つのナゾ」
【展示会場】 鳥栖市立図書館
２階展示ホール
【開催日】令和３年７月 22 日
～令和３年８月 31 日
【概 要】
夏休み期間に、小・中学生に「鳥栖の歴史」に関心を持ってもらうため、日本の歴史における「時代」の特徴を紹介し、それぞれの「時代」を象徴する鳥栖市の資料を展示した。

第１回企画展（市立図書館２階展示ホール）

・第２回「令和の発掘速報展」
【展示会場】 鳥栖市立図書館２階展示ホール
【開催日】令和３年 11 月３日～令和３年 12 月５日
【概　要】
令和元年度から３年度で実施した、各種開発工事に係る埋蔵文化財の発掘調査の成果を展示解説パネルで各遺跡の概要を紹介し、発掘調査の出土遺物と写真資料を展示した。

⑨ 腰岳黒曜石シンポジウム (伊万里市)

【開催期間】令和３年 10 月９日～令和３年 10 月 10 日
【展示概要】

伊万里市南部に所在する腰岳（標高約 487.7 m）は、九州随一の黒曜石原産地であり、先史時代には石器の材料として使用され、九州を中心として西日本や琉球半島、朝鮮半島まで流通した。

平成 26 年以降、腰岳黒曜石の全容解明を目指して文化財・大学関係者により結成された「腰岳黒曜石原産地研究グループ」が、地質、岩質、考古学的な調査を実施し、腰岳黒曜石の生成過程や人類活動の具体的な様相などが明らかにされつつある。調査によって明らかとなった腰岳黒曜石原産地についての新たな発見を、広く市民に向けて公開し、誇れる郷土の文化財として、今後の保護活動や保護理解を進めるためにシンポジウムを開催した。

シンポジウムは令和３年 10 月９日、10 日の２日間、伊万里市民図書館ホールにて対面式とオンライン配信により開催した。「日本列島のなかの腰岳黒曜石原産地」をテーマに、東アジア全体における腰岳黒曜石の範囲分布に関する講演や黒曜石の生成過程、隠岐や霧ヶ峰といった国内の黒曜石原産地状況、また消費地での腰岳黒曜石の状況などについての基調報告を行い、多角的な視野から腰岳黒曜石の新たな特徴を提示した。その他にも、一般向けの腰岳黒曜石に関する講座や石器製作の実演を行った。また、研究者向け資料の他に、初めて一般向けの腰岳黒曜石に関するパンフレットも作成し、参加者及び市内の小中学校や関係者等へ配布した。シンポジウムの参加者数は、対面式では２日間で延 101 名であり、オンライン配信では延 135 名、計 236 名であった。

またシンポジウム開催に合わせて、令和３年 10 月５日から 11 月 21 日まで、伊万里市歴史民俗資料館で腰岳黒曜石に関する展示を行った。期間中（42 日間）の来場者数は 265 名であった。

腰岳黒曜石に関するシンポジウムを開催したことにより、市民に対して日頃から見慣れている腰岳についての新たな歴史的価値を伝えるとともに、腰岳黒曜石原産地の保護事業について理解や周知する事が出来た。（野田千輝）

シンポジウム状況

石器製作の実演状況

⑩鍋島焼調査研究発表会（伊万里市）

【開催期間】令和４年２月 12 日～令和４年２月 13 日
【活動概要】
　伊万里市では平成 26 年度から国県の補助を活用し、大川内町に所在する史跡大川内鍋島窯跡の将来的な保存・整備・活用を図り、地域活性化に資するため、遺構の範囲や性格、歴史的変遷を明らかにする確認調査を行っている。主な調査内容としては、史跡内にある初期鍋島を焼いていた日峯社下窯跡及び物原の基礎データの収集である。
　そのなかで特に、平成29年度から令和元年までに行った整理作業の成果について発表した。発表は、近世陶磁器に関する調査・研究を行っている近世陶磁研究会と伊万里市教育委員会が共同で「江戸時代に佐賀藩が特別誂えした鍋島焼の特質」をテーマに開催した発表会にて行った。
　発表会では、発掘調査によって分かった日峯社下窯跡の構造や出土遺物に関する新たな知見だけでなく、鍋島焼の始まりや変遷、伊万里以外で出土した国内各地の鍋島焼についての研究など多岐にわたる内容の発表が行われた。
　発表会は、新型コロナウイルス感染拡大のため、オンライン配信のみで行い、市民の方向けに配信の放映会場として図書館ホールを設けた。２日間で計 156 名の参加があった。また、オンライン配信であったため、国内だけに限らず、海外からも 11 名の研究者が参加することができた。
　この発表会を行ったことにより、市民の方へ鍋島焼の歴史的価値を伝えると共に、史跡大川内鍋島窯跡の保護事業について広く理解や周知をすることが出来た。
また、発表会を伊万里市教育委員会と近世陶磁研究会が共同で行ったことで、通常だと研究団体に所属している研究者のみで情報共有が終わりがちである最新の専門的な研究の成果を、一般市民の方にも広く公開することができた。
　発表会にあわせて伊万里市歴史民俗資料館にて２月 11 日から４月 10 日まで日峯社下窯跡の調査成果と出土遺物の企画展示を行い、展示期間中（59 日間）248 名の来場者があった。さらに、展示に加え、一般の方向けの小冊子を作成し、発表会の参加者と資料館の来館者への配布を行った。
（長沼　茜里）

リモート発表の様子

企画展示風景

⑪土生遺跡発見50年記念事業「発見50年　土生遺跡」特別展(小城市)

【展示会場】 小城市立歴史資料館企画展示室
【開催期間】 令和３年９月３日～令和３年10月24日
【展示概要】

土生遺跡は、弥生時代前期から後期にかけて営まれた佐賀平野の嘉瀬川以西域では最大規模の集落跡である。昭和46（1971）年の鉱害復旧工事の際に偶然発見され、すぐさま緊急の発掘調査が行われ、それらの調査成果から昭和48（1973）年には弥生時代の農業を知るうえで貴重な遺跡として国史跡に指定されている。

これまでの20次にわたる発掘調査では、住居跡や貯蔵穴、井戸跡などの遺構が確認されている。また、多量の弥生土器とともに石器、木製品、朝鮮半島の影響を受けた土器など多様な遺物が出土している。なかでも朝鮮系無文土器や国内初となる青銅製ヤリガンナ鋳型や、朝鮮半島出土の青銅器に描かれたものと同形態の踏鋤は、朝鮮半島系の文化が伝来し、弥生時代の文化と交わっていたことを裏付ける貴重な資料となっている。

現在では、遺跡の内容に共通点が多いことから、土生遺跡に隣接する「仁俣（ふたまた）遺跡」や「久蘇（くしょ）遺跡」を併せて「土生遺跡群」と総称している。

令和３（2021）年は土生遺跡の発見から50年が経過することから、９月３日～10月24日にかけて小城市立歴史資料館企画展示室で特別展を開催し、半世紀の間に蓄積された調査成果を広く公開し、当時、国内最先端の技術や文化を有していた「土生遺跡群」の実像と重要性について紹介した。

土生遺跡発見50年を記念した展示は、小城市立歴史資料館以外でも行われた。８月27日～10月17日には佐賀県立博物館主催で「発見50年　土生遺跡」と題したテーマ展が開催され、８月24日～10月24日には佐賀県立名護屋城博物館の常設展示室の１コーナーで高度な加工技術で製作された土生遺跡群から出土した木製品を展示し、休憩コーナーでは写真パネルで土生遺跡群を紹介した。

土生遺跡群から出土した遺物は膨大な点数におよぶ。今回、３館それぞれで異なる視点やテーマで出土遺物を展示したことで、小城市立歴史資料館だけでは紹介しきれない土生遺跡群の概要を広く紹介することができた。

⑫土生遺跡公園まつり 2021(小城市)

【開催期間】令和 3 年 10 月 16 日
【活動概要】
　土生遺跡発見 40 周年を機に始まった「土生遺跡公園まつり」は、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対策として開催することができなかった。10 回目となる今回も小城市民学芸員の協力を得て 10 月 16 日に開催し、2 組の親子が土生遺跡公園で「土偶づくり」や「火おこし体験」等に挑戦した。できあがった土偶は、文化課職員が野焼きを行い焼成し、11 月 24 日～ 12 月 26 日のあいだ小城市立歴史資料館の壁ギャラリーで展示した。

土生遺跡公園まつり 2021　参加者

火おこしに挑戦！

できあがった土偶たち

(3) 開発事業と文化財保護の調整

令和３年度の埋蔵文化財届出は 1,258 件、通知は 191 件で、合わせて 1,449 件が提出、処理された。令和２年度 1,506 件、令和元年度 1046 件とこまで右肩上がりで増加してきたものの、僅かに減少している。減少の要因はコロナ渦に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行によるものと思われるが､意外なことに住宅や共同住宅建設など､個人消費に裏付けられる 93 条は増加しており、公共事業を反映する 94 条が著しく減少している。これは新型コロナウイルス感染症への対策を軸とした予算編成により、公共事業などに充てる投資的経費が減少している。宅地造成や個人住宅建設の増加に伴うものと思われ、佐賀市、鳥栖市、唐津市等の都市部でほぼ半数を占めるが、小城市やみやき町等隣接する市町での増加も著しい。また、これに伴い、359 件の確認調査が実施され、３件の遺跡が新たに発見、登録され、24 件の本調査が実施されている。

一方、文化財保護室の状況としては、佐賀道路の建設に伴い、藤三郎屋敷遺跡 (D・F・G 区)、扇町三本柳籠遺跡の３件について、埋蔵文化財の本発掘調査を実施した。また、農業基盤整備事業については、佐賀中部農林事務所所管の佐賀市高木瀬地区ほ場整備事業に係る調整及び確認調査を行い、一部で遺構・遺物が検出されたため、新たに埋蔵文化財包蔵地として佐賀県遺跡地図に登録し、令和４年度に本調査を実施するこで調整を行った。このほか、佐賀道路、有明海沿岸道路の建設予定地国営吉野ヶ里歴史公園の日吉神社移転に伴い、公園隣接地において事業進捗に伴う調整および確認調査を行った。

また、県土整備部、地域交流部及び農林水産部の令和 4 年度所管県事業について、各部事業所管課、各土木事務所、各農林事務所、関係する市町教育委員会文化財保護部局が連携し、調整会議を開催し、令和 4 年度所管国事業について、佐賀国道事務所、武雄河川事務所、筑後川河川事務所、筑後川下流右岸農地防災事務所、佐賀森林管理署の協力の元、調整会議を開催して文化財保護と開発計画との調整を行った。

(4) 文化財の調査 (埋蔵文化財発掘調査)

令和３年度におる緊急開発等に伴う届出等の総件数は 1,449 件で、その内訳については下表のとおりである。

また、 43 件の出土資料を文化財として認定した。

① 開発事業別発掘届及び調査件数

区　部	法 93・94 条の件数	法 92・99 条の件数	計
道路	23	4	9
鉄道	0	0	0
空港	0	0	0
河川改修	9	1	3
港湾整備	0	0	0
ダム建設	1	0	1
学校建設	17	0	4
住宅	175	1	3
個人住宅	775	10	250
工場	7	1	168
店舗	16	0	9
店舗兼住宅	3	0	3
その他建物	104	1	38
宅地造成	89	4	68
土地区画整理	0	0	0
公園造成	8	1	5
ゴルフ場造成	0	0	0
観光開発	0	0	0
ガス・電気・水道	63	0	0
農林業基盤整備	3	0	2
農業関連	49	0	5
土砂採取	4	0	0
その他開発	101	1	74
小　計	1,448	24	1,472
自然崩壊	1	0	1
保存目的	0	0	0
学術調査	0	1	1
遺跡整備	0	0	0
小　計	1	1	2
合　計	1,449	25	1,474

② 文書別件数

区　分		件　数
発見届	法 96 条	0
	法 97 条	0
	合　計	0
区　分		件　数
発掘届	法 92 条	0
	法 93 条	1,258
	法 94 条	191
	法 99 条	25
	合　計	1,474

⑤ 出土文化財の認定件数

43

⑥ 出土遺物の量

(コンテナ換算)

令和２年度までの累計	203,792
令和３年度の増加分	368
合　計	204,160

③ 埋蔵文化財包蔵地周知化の経緯

区　分		件数
発見届 法 96・97 条	工事中	0
	開発予定地の現地踏査	0
	開発予定地内の試掘・確認調査	2
	その他	0
	合　計	2

④ 工事件数、指示・勧告の内容別件数、調査件数、調査の主体別件数

区　分				件数
工事の届出等	指示勧告の内容	現状保存		0
		確認調査		497
		うち一部保存の件数)		
		工事立会		134
		慎重工事		800
法 93・94 条		その他	注意	18
			未指示	0
調査の届出等	法 92 条	試掘・確認調査		0
		本発掘調査		0
	法 99 条	試掘・確認調査		0
		本発掘調査		25
合　計				1,474

令和３年度埋蔵文化財発掘調査・重要遺跡確認調査等の実施一覧

下表は、令和３年度に文化財保護法第 99 条第１項の規定等により、報告を受けた本発掘調査の一覧である。このうち、一部について内容等を後に掲載した。

番号	調査主体	遺跡名	調査期間	調査面積（㎡）	遺跡の性格	調査の原因
1	佐賀県	藤三郎屋敷遺跡Ｄ区	R3.4.20 ～ 8.31	231	中近世の集落と墓地	道路建設
2		藤三郎屋敷遺跡Ｆ区		1,368	中近世の集落と墓地	道路建設
3		藤三郎屋敷遺跡Ｇ区		1,890	中近世の集落と墓地	道路建設
4		扇町三本柳籠遺跡	R3.6.7 ～ 6.30	220	平安時代の集落跡	道路建設
5		名護屋城跡水手通路	R3.4.1 ～ R4.3.31	200	文禄・慶長の役に際し築かれた城郭跡	学術調査
6		名護屋城跡弾正丸東下	R3.4.1 ～ R4.3.31	60	文禄・慶長の役に際し築かれた城郭跡	学術調査
7		島津義弘陣跡	R3.4.1 ～ R4.3.31	433	文禄・慶長の役に際し築かれた陣跡	学術調査
8	佐賀市	太田城跡２区	R3.4.19 ～ 4.30	104	中世～近世の城館跡	住宅建設
8		多布施反射炉跡	R3.6.11 ～ 6.30	58	近世の生産遺跡	住宅建設
10		鍵尼遺跡 10 区	R3.7.30 ～ 8.24	119	弥生～中世の集落跡	住宅建設
11		蛎久遺跡５区	R3.9.21 ～ 10.11	124	弥生～中世の集落跡	住宅建設
12		北原遺跡	R3.11.9 ～ 12.3	135	弥生～中世の集落跡	住宅建設
13		長瀬遺跡	R3.12.6 ～ 12.17	130	弥生～中世の集落跡	住宅建設
14		長瀬遺跡	R3.12.22 ～ R4.1.21	111	弥生～中世の集落跡	住宅建設
15		原口遺跡３区	R4.1.5 ～ 1.19	58	弥生～中世の集落跡	住宅建設
16		久池井遺跡８区	R4.1.20 ～ 1.27	65	弥生～中世の集落跡	住宅建設
17		七ヶ瀬遺跡４区	R4.2.7 ～ 2.25	90	古墳時代の集落跡	工業団地建設
18		小里一本松遺跡	R4.3.23 ～ 3.30	230	弥生～古代の集落跡	農業関係
19		玉林寺遺跡　３区	R4.3.23 ～ 3.30	60	弥生～古代の集落跡	住宅建設
20	唐津市	芳谷炭鉱跡	R3.5.10 ～ R4.3.11	95	近代の炭鉱跡	河川改修
21		宇木汲田遺跡	R4.2.1 ～ 3.31	33	弥生時代の集落跡・墳墓	重要遺跡
22	鳥栖市	勝尾城筑紫氏遺跡	R3.10.1 ～ R4.2.28	153	中世の城館跡	重要遺跡
23		本川原遺跡	R3.5.10 ～ R4.3.31	8,000	弥生～古代の集落、墓地	工業用地造成
24	基山町	古寺遺跡	R3.12 ～ R4.2	1,000	古代の集落跡	下水処理場建設
25	上峰町	鎮西山城跡	R3.12.21 ～ R4.3.19	5,598	中世の城館跡	公園造成
26		西前牟田遺跡	R4.2.3 ～ 2.28	170	弥生時代の集落跡	住宅建設
27	みやき町	一反原遺跡２区	R3.7.19 ～ 8.2	120	不明	住宅建設
28		大園遺跡５区	R3.11.8 ～ R4.1.18	400	弥生時代～古墳時代の集落跡、中世の包含層	宅地造成
29		二の幡遺跡	R4.2.4 ～ 2.28	150	古墳時代、中世の集落跡	宅地造成
30		一の幡遺跡	R4.2.4 ～ 3.17	150	古代～中世の集落跡	宅地造成

①１～３．藤三郎屋敷遺跡（とうざぶろうやしきいせき）Ｄ・Ｆ・Ｇ区（く）

【所在地】佐賀市嘉瀬町大字中原　地内
【調査の原因】佐賀道路建設に伴う文化財調査
【調査主体】佐賀県文化課文化財保護室
【調査期間】令和３年４月 20 日～令和３年８月 31 日
【遺跡の時代と種類】中近世の集落と墓地
【調査面積】Ｄ区　231㎡
Ｆ区 1,368㎡
Ｇ区 1,890㎡
【調査概要】

藤三郎屋敷遺跡は佐賀市南西部の嘉瀬町大字中原に所在し、西に嘉瀬川、東に本庄江と両河川に挟まれた佐賀平野の沖積層（有明粘土層）に立地する。調査前は水田として使用されており、標高は田面で 2.4 ～ 2.5 ｍである。昭和 50 年代の圃場整備により区画整理が進んでいるが、明治時代の地積図では、調査対象地付近に高畑と思われる小区画の地割や墓地・社などの表記があり、微地形てきにはやや標高の高い場所であったと考えられる。

周辺での発掘調査例は少なく、西側の中原集落一帯ではクリークに周囲を囲まれた佐賀平野独特の低平地集落の景観を見ることができ、集落内には「大木（城）戸」・「蒲原小路」など、武家の居館に関連する「しこ名」が残るとされている。「藤三郎屋敷遺跡」の名称は、このような古い字名や「しこ名」を基にしているが、周辺には「松本屋敷籠」・「天神屋敷」の地名もあり、今回の調査地点には「八王寺」という寺院を思わせる「しこ名」がみられる。

『佐賀郡誌』では蒲原佐渡守なる領主の「居城」が中原にあるとされ。また『佐賀縣史編纂資料 360 五ケ国配分帳並惣方帳』（佐賀県立図書館）中に「嘉瀬中原城主蒲原佐渡守～」との記述がみられる。戦国期の竜造寺家から藩政期の鍋島家まで存続した「蒲原氏」が中原地区周辺に所領を持ち、中でも現中原集落付近に蒲原氏の城館跡が存在していたことが推定される。

調査の結果、Ｄ区では昨年度調査したＡ区とＥ区を繋ぐ溝跡が確認された。

Ｆ区ではＥ区から続く中世後期の溝跡が検出されたほか、「掘立柱建物」３棟や「井戸」４基が発見され、当該地が居住地として利用されていた様子が明らかとなった。前述の溝跡は調査区南側で検出された東西方向に走る幅が約 10 ｍの近世の溝跡によって切られており、本来はどの方向に連続していたのか、今後検討が必要である。また、出土遺物については土器陶磁器の他、曲げ物や下駄・瓢箪等の生活用品を中心とした木製品も特徴である。

Ｇ区では、調査区を４分割する大溝が東西方向と南北方向に走り、その溝に区画された北東部と南西部に約 60 基の墓壙が検出された。墓壙は木棺墓が 18 基、桶棺墓が 15 基、陶器製甕棺墓が 20 基、その他土壙墓等が６基であり、木棺墓については、平面形態が方形、六角形、長方形とバリエーションが見られた。また、出土遺物については中近世の土器陶磁器の他、古代の土師器や須恵器なども出土している。大溝からは五輪塔や宝篋印塔の石塔が多数出土し、墓壙からは銅銭と漆椀や櫛・折敷・数珠・鳩形木製品・小箱・曲げ物等多様な木製品が出土している。

以上のことから、佐賀平野における中世～近世にかけての集落や墓域の一部が明らかになった。また。溝の切り合いや堀り直しの痕跡も確認できたことから、佐賀平野特融の低平地における土地利用の変遷も一部明らかとなった。(越知睦和)

G 区 SK35・36 甕棺検出状況

G 区 SK42 桶棺検出状況

②名護屋城跡水手通路（特別史跡名護屋城跡並陣跡）

【所在地】唐津市鎮西町名護屋【遺跡の時代と種類】文禄・慶長の役（1592 ～ 1598）の際の城郭跡
【調査の原因】史跡内容確認 【調査面積】200㎡ 【調査主体】佐賀県立名護屋城博物館
【調査期間】令和３年４月１日～令和４年３月 31 日
【調査の概要】

名護屋城跡北側に位置する水手通路では、将来的な修景整備に向けた発掘調査を実施している。発掘調査は平成 25 年度から継続的に行い、令和３年度は令和２年度に設定した現況水手通路脇（西側）の平坦部（標高約 57 m）の調査区を北側に拡張し調査を行った。

調査の結果、水手通路の一部と考えられる法面が更に延長することを確認した。また、法面の西側平坦部は江戸時代後半以降、丁寧に整地している状況が遺物や土層の観察から明らかとなった。

当該期の水手通路の形状と構成、江戸時代の水手通路周辺の土地利用の変遷を知るうえで重要な情報が得られた。（大橋正浩）

水手通路（全景）調査状況（北西から）

水手通路（通路西側法面）調査状況（南西から）

③名護屋城跡弾正丸東下（特別史跡名護屋城跡並陣跡）

【所在地】唐津市鎮西町名護屋【遺跡の時代と種類】文禄・慶長の役（1592 ～ 1598）の際の城郭跡
【調査の原因】史跡内容確認 【調査面積】60㎡ 【調査主体】佐賀県立名護屋城博物館
【調査期間】令和３年４月１日～令和４年３月３１日
【調査概要】

名護屋城跡弾正丸東下では、将来的な保存・整備事業に備えて基礎資料を得る目的で、名護屋城跡弾正丸下に展開する帯曲輪状の平坦面（標高 70 m程度）と弾正丸東下の石採場周辺（標高 66 m）において発掘調査を行った。

調査の結果、弾正丸南側隅角石垣下において、約 210㎝（７尺程度）の間隔で２つの小穴を発見し、掘立柱建物跡や柵列の存在が想定できた。また、石採場周辺で石の搬出を行うための通路だと想定していた箇所では、岩盤が削平されている状況を確認した。遺物については、調査区全域から当該期の瓦が出土した。

当該期における弾正丸下の帯曲輪状平坦面や石採場周辺の空間利用の様子を想定するうえで重要な情報が得られた。（唐尚暉）

弾正丸東下（石採り場周辺）調査状況（南西から）

弾正丸東下（調査区全景）調査状況（南から）

④島津義弘陣跡（特別史跡 名護屋城跡 並 陣跡）

【所在地】唐津市鎮西町名護屋【遺跡の時代と種類】文禄・慶長の役（1592 ～ 1598）の際の城郭跡
【調査の原因】史跡内容確認　【調査面積】433㎡　【調査主体】佐賀県立名護屋城博物館
【調査期間】令和３年４月１日～令和４年３月31日
【調査概要】

島津義弘陣跡は、名護屋城跡から約2.5㎞北西に位置する標高20.9ｍの丘陵上に比定されている。陣跡の中心部には、最も規模が大きい50ｍ四方の主郭が配され、その東西には小規模な曲輪群が展開している。

発掘調査は、令和２年度から継続して主郭部を中心に実施した。その結果、主郭部頂部では、前年度までに検出されていた、玉石敷き（親指大の玉石が密に敷き詰められている面）が一定の広がりを持っていることを確認した。また、江戸期の造成土層下から溝跡を検出し、溝跡の中より、土師器坏が３点出土した。主郭部東虎口周辺では、当該期の遺構面と考えられる層は広範囲に及ぶ江戸期の造成により削平されている状況が確認され、周辺の石塁の一部も江戸期以降に集積されたものであることを確認した。江戸期の造成土層下からは小穴列、玉石集積遺構、溝跡を検出し、溝跡の中からは当該期と考えられる肥前産の擂鉢片１点が出土した。次に主郭南西部では、江戸期の造成土層下の黒褐色土層から大小の石材と須恵器片が出土し、２条の石列を検出した。また、黒褐色土層直上で当該期と考えられる礫面を検出した。主郭南東隅周辺は、過年度の調査で櫓台の存在が想定されており、櫓台の規模を確認するために前年度調査区の拡張を行った。その結果、隅角部や築石の石材は確認できなかったが、破却により崩落した栗石の層直下から櫓台の造成裏栗石層を検出した。

島津義弘陣跡（主郭頂部）玉石敷き検出状況（北西から）

江戸時代以降に大規模な削平と盛土造成を受けていることが明らかになった一方で、一部で当該期の遺構の残存が確認されており、遺物（中国産（明末）、朝鮮産、瀬戸美濃産の陶磁器片、土師器の皿）も出土したことから、島津義弘陣の状況を想定するうえで重要な情報が得られたといえる。（唐尚暉）

島津義弘陣跡（主郭頂部）土師器出土状況（西から）

⑤宇木汲田遺跡（唐津市）

【所在地】唐津市　　【遺跡の時代と種類】弥生時代の集落跡・墳墓
【調査の原因】重要遺跡範囲確認調査　　【調査面積】33㎡　　【調査主体】唐津市教育委員会
【調査期間】令和４年２月１日～令和４年３月 30 日
【調査概要】

宇木汲田遺跡は、唐津市中部、夕日山山系から東側に派生する丘陵の末端から低地にかけて立地する。当該遺跡の西側丘陵には、国史跡森田支石墓が存在する。
昭和５年に行われた区画整理の際に青銅器が不時発見されたのを契機に、学術調査が数次にわたり行われてきた。唐津市教育委員会は昭和５８～６２年度、平成２６・２８・２９年度、令和元・２・３年度に調査を行った。

令和３年度の調査は、平成２９年度調査区の南側隣接地にあたり、当該遺跡の南限を把握することを主眼にトレンチを設定した。調査地の標高は約１４ｍである。３つのトレンチのうち、901 トレンチでは流路状の落ち込み及び弥生時代の遺物包含層を確認し、902 トレンチでは同じく流路状の落ち込みから、土器のほか木製遺物が出土した。903 トレンチでは、901・902 トレンチと比べ、浅い地点から湧水し、周辺状況から見ても埋没した谷状地形であることが判明した。遺構は土坑１基のほか出土遺物は少ないことから、遺跡の縁辺部であることが確認できた。

また、３月２７日（日）に地元向けの現地説明会を行った。急遽、企画・広報したにもかかわらず、地元の宇木地区に在住する１７名の方々にご参加いただいた。説明会では令和３年度の調査成果を説明するとともに、これまでの調査で出土した小児棺や土器・石器を展示した。（鮎川和樹）

令和３年度調査トレンチ全景

地元向け説明会

⑥ 史跡勝尾城筑紫氏遺跡

【所在地】牛原町・山浦町・河内町　　【遺跡の時代と種類】中世、城館跡
【調査原因】重要遺跡確認調査　　【調査面積】153㎡　　【調査主体】鳥栖市教育委員会
【調査期間】令和３年 10 月 1 日～令和 4 年 2 月 28 日
【調査概要】

遺跡は、市北西部の城山麓一帯に位置し、戦国時代後期に肥前、筑前、筑後の国境地帯を中心に勢力を拡げた国人領主筑紫氏の山城群とその城館跡である。

今年度の調査地区は、本城の勝尾城の南東に築城された支城の葛籠城跡で、城下防備の最前線に築かれ、二条の長大な空堀が良好な状態で残存する。

調査の目的は、空堀 1 の北側に小規模な堀状の窪みが付帯しているため、その状況把握と葛籠城の二条の空堀を縦断する南北に走る直線道があり、これまで近代以降のものと考えていたが、享和元年（1801）の養父郡東部図の発見により、この直線道が葛籠城と同時期に機能していた道路なのか、廃城後の天正 14 年（1586）以降に造られた道路なのかを把握するために調査を実施した（調査地点の標高約 85 m）。

調査の結果、空堀 1 の北側土塁に付帯する窪みを掘り下げた結果、硬化面を確認し、一部は不規則であるが階段状になっている箇所もあり、城内の通路遺構であると考える。
また、上記の現直線道と「養父郡東部図」の絵図との関係については、トレンチの土層状況より、この直線道は空堀 1・2 を埋めて造成していることが明らかとなったことから、勝尾城の廃城後から享和元年（1801）までに造成された道路であることが判明された。

以上のことから、今回の調査で葛籠城の内部構造の新たな一端が解明されたことから、今後の当遺跡の保存整備並びに公開活用事業に反映していくことができる。（内野武史）

⑦本川原遺跡６区

【 所 在 地 】姫方町 513 － 1 他　　【遺跡の時代】弥生・奈良時代
【 種 類 】集落跡　　【調査面積】8,000㎡　　【事業の原因】工業用地造成
【調査の期間】令和３年５月 10 日～３月 18 日　　【調査主体】鳥栖市教育委員会
【調査の概要】

本遺跡は、鳥栖市の中心部より北東、柚比丘陵の最南端に位置し、標高約 23 ～ 25m である。1973 年の 1 次調査 (1 区) 以降、74 年、78 年、81 年、90 年と実施されており、本調査は 6 次調査 (6 区) となる。過去の調査から縄文時代～中世の遺構が確認されている。今回の調査地は国道３号と 34 号の分岐点の南東 50m に位置する。73 年の調査地点東に隣接し、一部重複している。

調査の結果、弥生時代後期～古墳時代初頭、古墳時代後期・奈良時代と大きく分けて３時代の遺構と 73 年の調査で発見された方形周溝墓と推測される痕跡を 2 カ所確認した。弥生時代後期から古墳時代初頭の遺構は、丘陵の頂部から北斜面にかけて集中して、竪穴住居跡 14 軒、土坑２基を検出した。これによって近接する 73・74 年の調査で発見された集落が東へ広がっていくことが確認された。検出した竪穴住居は、平面形状が長方形のものに混ざり、方形の平面形状にベッド状遺構を持つものが確認され、竪穴住居の形態変化の過渡期といえる。今回出土した遺物から、この時期の集落は方形周

溝墓造営直前に廃絶したものと考えられる。古墳時代後期・奈良時代の遺構は、方形周溝墓の存在する丘陵頂部を避けるように丘陵の南斜面から南東部に集中して検出された。古墳時代後期の竪穴住居が８軒、土坑 36 基、井戸１基、溝１条を、奈良時代の竪穴住居３軒、土坑 13 基を確認した。古墳時代後期以降の遺構は、近接する 73・74 年調査地ではごく少数しか発見されていなかったが、今回の調査で確認されたことで集落域の広がり、土地利用の変化を明らかにすることができた。(藤岡怜史)

本川原遺跡第１回空撮写真（南東から）

本川原遺跡第３回空撮写真（北東から）

⑧鎮西山（ちんぜいさん）城（じょう）跡

【所在地】三養基郡上峰町大字堤字三本黒木　　【遺跡の時代と種類】戦国時代の山城跡
【調査の原因】鎮西山再整備事業　　【調査面積】5,598㎡　　【調査主体】上峰町教育委員会
【調査期間】令和３年 12 月 21 日～令和４年３月 19 日
【調査概要】

鎮西山は、脊振山系の九千谷山～石谷山間の南西麓に位置する標高 202m、比高 150m の独立峰で、平安時代末期の武将鎮西八郎源為朝の伝説が残る。鎮西山城跡の現況詳細については、『佐賀県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅱ　佐賀県の中近世城館第２集　各説編１（三養基・神埼・佐賀地区）』（2013 年３月　佐賀県教育委員会）の中に記載されている。山頂一帯の地表面観察により縄張図作成を実施した宮武正登氏は、最高所に主郭、主郭東下に副郭、主郭西下に出丸相当の曲輪跡を確認でき、主郭と副郭の曲輪裾部を取り巻くように帯曲輪が付随し、副郭南・東下、主郭北下などの外岸に土塁を盛った上幅 2m 前後、深さ 0.5m 強の横堀構造を看取できるとし、本来は中心部の周囲全体を横堀が囲繞するプランであったと推定している。その他にも各所に土塁や腰曲輪、堀切、竪堀などの城郭遺構が認められ、城郭の残存規模を南北 120m ×東西 280m の範囲としている。宮武氏は、鎮西山城跡を曲輪、横堀、土塁を有する戦国期山城と評価している。今回の調査対象区域となる山頂一帯は、これまで展望台や東屋を有する町管理の公園として利用されていた。

まず、城郭遺構の有無や規模、形状などの確認を目的として、３つの主要な曲輪、土塁、横堀、帯曲輪などの各所に計 26 本のトレンチを設定して、調査を実施した。トレンチ調査の最大の成果は、未調査の主郭裾部の西側、北西側を除いて、横堀が主郭の北東側と南東側、副郭の裾部のほぼ全体を

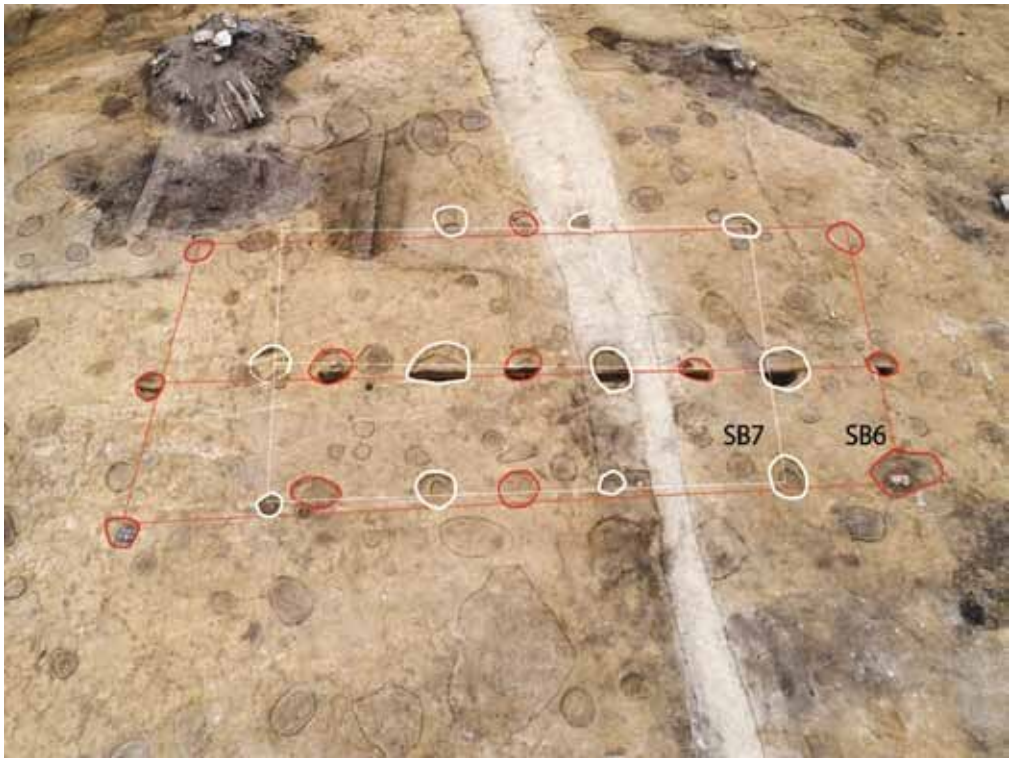
鎮西山城跡　副郭調査状況（天が北、写真右側が副郭）

囲繞することが分かったことである。横堀の規模は、城内側の塁上と城外側の堀際の水平幅は 4 ～ 6m、城外側の堀際の深さは 0.5 ～ 1m 程度で、断面形状は毛抜堀形、逆台形状の箱掘形を呈する。今回の調査で明らかに戦国時代と判断できる遺物は出土していないが、主要な曲輪全体を横堀が囲繞する山城は 16 世紀代に築城された鳥栖市の葛籠城跡、神埼市の横大路城跡があり、現存する城郭遺構群で構成される鎮西山城跡の最終的な造営時期は同時期に該当するものと考えられる。

主郭東下にある副郭は、平面長楕円形を呈する東西 60m ×南北 30m 規模の曲輪である。副郭の調査は、曲輪全面の遺構検出を行い、遺構配置状況の把握を目的として調査を実施した。遺構掘削に関しては、建物跡などの柱穴の半裁や、溝状遺構などのトレンチ掘削を部分的に実施したのみである。検出した城郭遺構は、掘立柱建物跡 2 棟や柵列跡群、堀切、南北方向に走る区画溝、曲輪縁辺部のやや内側を外周する溝状遺構などである。

SB6、SB7 は副郭中央で検出した掘立柱建物跡で、SB6 は梁行 1 間×桁行 4 間、SB7 は梁行 1 間×桁行 3 間で、ともに西側に庇を持つ南北棟の建物である。SB6、SB7 は建物プランが重複していることから建て替えが行われているが、建物構築の前後関係は不明である。柵列跡群は副郭南西部において検出し、南側からの敵の進入を防ぐために SA2（柱穴 7 基）と SA10（柱穴 5 基）、SA8（柱穴 7 基）が東西方向を軸にして配置されている。副郭西側で検出した SD5 は、南北方向に走る溝状遺構で上端幅 4.2m、深度 1.1m を測り、主郭と副郭を分断する位置に構築されていることから堀切跡であると考えられる。副郭東側で検出した SD4、SD11 は、ともに幅 2 ～ 3m の南北方向に走る溝状遺構で、東西に 10m 程度の距離をおいて並走している状況から、副郭内の区画に伴う遺構であると推定される。曲輪縁辺部のやや内側を外周する溝状遺構 SD14、SD15、SD16 があり、その外側にはそれぞれ土層観察により土塁か曲輪を盛土造成したと考えられる痕跡を確認したが、現況では判断できなかった。

今回の発掘調査で出土した遺物については、12 ～ 13 世紀代の土師器の坏、皿や中国産陶磁器類などが主体を占め、宗教性のある青白磁の合子が 4 個体分、土師質の香炉などが出土した。当該期の遺構数は少ないが、火葬場と考えられる土坑（SK1）、土器埋設遺構（SX17）を検出した。また副郭中央部から半径 3.4m の円周上に柱穴 20 基を配置した円形建物跡（SB9）を検出した。柱穴の配置については再検討の余地が必要だが、平面円形もしくは鎌倉時代に創建した興福寺北円堂のような平面八角形の堂や塔などの構造物が想定される。これらの状況から、山頂には山城築城前に中世の山岳寺院や修験道などの宗教関連施設が存在したものと考えられる。（松浦　智）



鎮西山城跡　副郭　SB6・SB7 検出状況（西から）

⑨一反原遺跡２区

【所在地】みやき町大字原古賀　【遺跡の時代と種類】集落跡　【調査の原因】定住促進住宅建設
【調査面積】120㎡　【調査主体】みやき町教育委員会
【調査期間】令和３年７月 19 日～令和３年８月２日
【調査概要】

脊振山系から南に伸びる台地の西側縁辺部に位置し、標高 25.8m を測る。
今回の調査で検出された遺構には、土坑、溝跡、性格不明遺構、ピットがある。調査区全体にカクランが入り、遺構の残存状況はあまりよくなかった。遺物が全く出土していないため、遺構の時期や性格は不明である。

今回の調査では、これまで調査例のなかった台地の縁辺部にも遺構が残存していることが判明したことは重要な成果であった。（太田　睦）

全景（西から）

全景（東から）

SX003（東から）

SD005（北から）

⑩大園遺跡５区（おおぞのいせき）

【所在地】みやき町大字東尾　　【遺跡の時代と種類】弥生時代～古墳時代、中世の集落跡
【調査の原因】宅地造成　　【調査面積】400㎡　　【調査主体】みやき町教育委員会
【調査期間】令和３年 11 月８日～令和４年１月 18 日
【調査概要】

脊振山系から南に伸びる台地上に位置し、標高１２ｍ～１５ｍを測る。宅地造成工事において、南北にのびる道路建設部分の遺構の残存している北側について発掘調査を行った。周辺では、過去に４次にわたる発掘調査を実施しており、弥生時代～中世の集落跡が確認されている。

今回の調査で検出された遺構には、竪穴住居跡、土坑、溝跡、性格不明遺構、ピットがある。竪穴住居跡は、弥生時代中期の円形のものや、弥生時代後期の長方形のもの、古墳時代前期の長方形のものがある。土坑には円形の貯蔵穴になるとみられるものもある。調査区の南側には中世の包含層が広がっているが、性格は不明である。館もしくは城の堀跡の可能性もある。
遺物は、弥生土器の甕、壺、埦、土師器の甕、埦、須恵器、瓦器碗、青磁碗、白磁碗、石製紡錘車などの石器類が出土した。出土量はあまり多くない。

大園遺跡５区は、大園遺跡の乗る台地上及び縁辺部から谷部にかけての調査となった。台地上には弥生時代から古墳時代前期及び中世の集落跡が存在し、谷部には中世の包含層が広がっていることが判明した。（太田　睦）

遺跡全景

竪穴住居跡

SH026 遺物出土状況（東から）

SK001（北から）

⑪二の幡遺跡

【所在地】みやき町大字白壁　　【遺跡の時代と種類】古代及び中世の集落跡
【調査の原因】宅地造成　　【調査面積】150㎡　　【調査主体】みやき町教育委員会
【調査期間】令和４年２月４日～令和４年３月17日
【調査概要】

脊振山系から南に緩やかに下る台地上に位置し、標高13ｍを測る。宅地造成工事において、遺跡に影響のある擁壁及びブロック塀の部分について発掘調査を行った。周辺では、過去に調査が行われた例はなく、今回が二の幡遺跡の初めての調査となった。

今回の調査で検出された遺構には、土坑、溝跡、性格不明遺構、ピットがある。調査区が狭く、全形が不明のものが多いが、全体に遺構が深く、残りはよかった。調査区の南側からは遺構は確認されなかった。

遺物は、土師器、須恵器、瓦器碗、青磁碗、白磁碗、石器類が出土した。出土量はあまり多くない。今回の調査では､二の幡遺跡の乗る台地上に古代から中世の集落跡が広がっていることが確認された。今後の周辺の調査の進展により、台地上の遺跡の詳細が判明することに期待したい。（太田　睦）

調査区北側（北から）

SK004（東から）

SK006（南から）

SK013（北から）

⑫一の幡遺跡

【所在地】みやき町大字白壁　　【遺跡の時代と種類】弥生時代及び中世の集落跡
【調査の原因】宅地造成　　【調査面積】80㎡　　【調査主体】みやき町教育委員会
【調査期間】令和４年３月 18 日～令和４年３月 28 日
【調査概要】

脊振山系から南に緩やかに下る台地上に位置し、標高１１～１２ｍを測る。宅地造成工事において、遺跡に影響のある道路部分の、遺跡が確認された北側部分について発掘調査を行った。周辺では、令和２年度に北側に位置する一の幡古墳群の調査を実施し、弥生時代から古墳時代前期の集落跡を確認している。

今回の調査で検出された遺構には、土坑、溝跡、性格不明遺構、ピットがある。土坑には弥生時代のものと中世、近世のものがある。溝跡は、土器の小片が出土したのみで、時期は不明である。性格不明遺構は、方形や不整形のもので、近世の遺物が出土している。

遺物は、土師器、須恵器、瓦器碗、青磁碗、白磁碗、砥石等の石器類が出土した。出土量はあまり多くない。

今回の調査では、一の幡遺跡の乗る台地上に弥生時代及び中世の集落跡が広がっていることが確認された。今後の周辺の調査の進展により、台地上の遺跡の詳細が判明することに期待したい。

（太田　睦）

遺跡全景（北から）

遺跡南側（西から）

SK004（東から）

SX006（南から）

3　令和３年度の指定・登録等文化財一覧

種類	名称及び員数 指定等年月日	所在地 所有者等	概要
国登録 有形文化財 （建造物）	願正寺本堂ほか５件 （本堂、貴賓室、大広間、大玄関、鐘楼、山門）	佐賀市	佐賀城跡北に位置する当地の中心的真宗寺院である。境内中央に西寄りに本堂を建て、東側の中庭を囲うように貴賓室、大広間及び大玄関を配する。本堂の南東に鐘楼を建て、境内南辺に山門を開く。本堂は正面九間、奥行八間半、入母屋造り本瓦葺きであり、九州有数の規模と古さを持つ。貴賓室は切妻造り桟瓦葺きで、簡素ながら上質な藩主御成間（おなりのま）と伝わる。大広間は南北に長大な平面を持ち、小屋組にキングポストトラスを用い大空間を実現し、大玄関は切妻造り桟瓦葺きである。無柱の大空間が特徴。鐘楼は入母屋造り本瓦葺き。佐賀城下の時鐘として用いられたと伝わる。山門は四脚門で透彫や鈒金具など随所に浄土真宗寺院らしい華やかな装飾を見せる。
	令和３年５月11日告示	願正寺	

種類	名称及び員数 指定等年月日	所在地 所有者等	概要
国登録 有形文化財 （建造物）	旧枝梅酒造店舗兼主屋 令和３年５月 11 日告示	佐賀市 佐賀市	旧長崎街道に南面する造り酒屋の町家。二階建ての寄棟造り桟瓦葺き平入りで背後に棟を延ばし、全体にコの字の屋根とする。正面は一階に下屋を付し、二階は軒まで塗り込める。内部は東側を土間、西側を二列五室の部屋とする。佐賀特有のくど造の様相を伝え、建ちが低く全体に古式を残す。

種類	名称及び員数 指定等年月日	所在地 所有者等	概要
県重要文化財 有形文化財 （絵画）	鍋島直大像　百武兼行筆　１面 令和３年５月11日告示	佐賀市 公益財団法人鍋島報效会	本作は、明治14年（1881）に制作された60号サイズの油彩による肖像画である。駐伊特命全権公使としての鍋島直大（当時35歳）の姿をほぼ等身大に、腿から上の全身を捉える構図で描いている。直大は大礼服（この大礼服は現存、公益財団法人鍋島報效会蔵）を着用、佩刀し、旭日章とイタリア王冠勲一等大綬章を佩用する。特に、イタリア王室から授与された勲章は着任後間もない明治13年（1880）11月には受章が決定していたもので、直大に対する王室の厚遇ぶりを示していた。画面右下には、背景よりやや明るい赤の絵具で「紀元二千五百四十一年毎官暇敬写／特命全権公使従三位鍋島公真于羅馬／府　紀元節　百武兼行謹誌」の款記がある。直大の表情、複雑な衣装や装飾は入念かつ克明に描写され、人体のプロポーションと量感は正確に捉えられており、公使としての責を負う貴族の肖像画としての品格をたたえている。

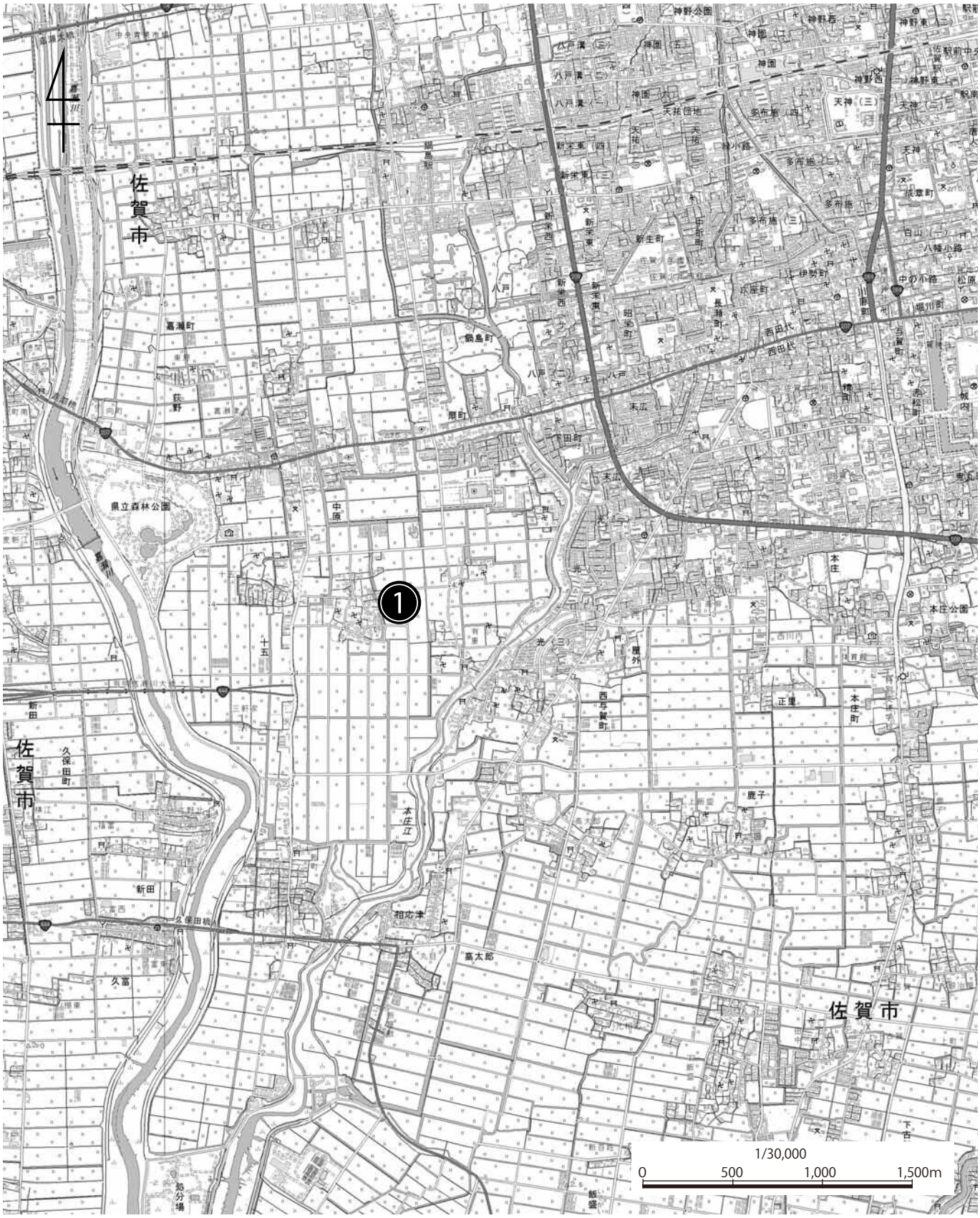
種類	名称及び員数 指定等年月日	所在地 所有者等	概要
県重要文化財 有形文化財 （典籍）	東遊歌風俗歌譜　１巻 令和３年５月11日告示	佐賀市 公益財団法人鍋島報效会	本資料は、東遊歌と風俗歌という二種の古代歌謡の譜の写本である。東遊歌は古代東国の歌舞が宮廷で奏された歌謡で、風俗歌は平安貴族の間で奏された地方の歌謡である。牙軸の巻子装で、縹色の表紙、白地の見返しとも銀切箔を散らす。料紙は鳥の子紙で、高さ27.5cm前後、幅48～49㎝強の十四紙を継いで料紙全長約677㎝をなすもので、表紙見返しには「東遊等」の墨書題箋を貼る。本文は、「東遊歌図」と題する一組に「東遊」と題する一組を続けて二組の東遊歌の譜を載せ、その後に「風俗」と題する風俗歌三十三曲を、十一曲（十二首）・五曲・十七曲という三組の群に分けて題名と歌譜を載せたもので、本文の行間の置き方や目録の書き方などから判断して、2つの東遊歌と３つの風俗歌の群から構成されている。また、風俗歌三十三曲の中には重複する曲もあることから、本資料が三種の別譜の集成的内容をもつものであることも窺える。

種類	名称及び員数 指定等年月日	所在地 所有者等	概要
県 重 要 文化財 有形文化財 （建造物）	石造肥前鳥居　１基 令和３年５月11日告示	白石町 宗教法人 稲佐神社	稲佐神社の肥前鳥居（四の鳥居）は、高さ約3.8 m、笠木の長さ4.5 mで、柱・笠石・貫の各部材は３本継ぎで、柱は中段と下段の石材が太く、下半部は上段と比べ柱径の逓減差が大きく、基礎は柱の下部を削り出して生け込みとし全体として重厚な容姿をもつ。柱の上端には台輪を付け、笠石と貫の間隔はとても狭く、島木が薄いだけでなく、笠木は他の肥前鳥居に比べて極めて薄く造形されており、わずかに反りがあるだけで刀刃状のほぼ水平の形状を有している。また、笠木両端の鼻の見付の意匠が左右でやや異なっており、正面左側の鼻の見付はわずかに背が高く折をもつのに対し、正面右側の鼻の見付は丸みを帯びた柔らかい流線形状をもっている。石材は、中段と下段の柱は凝灰角礫岩、上段の柱と笠石・貫は安山岩と考えられ、安山岩からなる部材は表面をノミで平滑に仕上げられているのに対して、中段と下段の柱は石材表面の風食が大きく礫が露出している状況にある。銘は、左右の上段柱の正面側にあり、右側の柱には「天正十三年乙酉當御鳥居」、左側の柱には「潤八月吉祥日奉建立畢」と天正13年の建立年紀が細い線で陰刻されているほか願主等の記載はない。また、額は付帯しておらず、額束と貫の中央部材は石材質と仕上げの様相から後補材と考えられる。

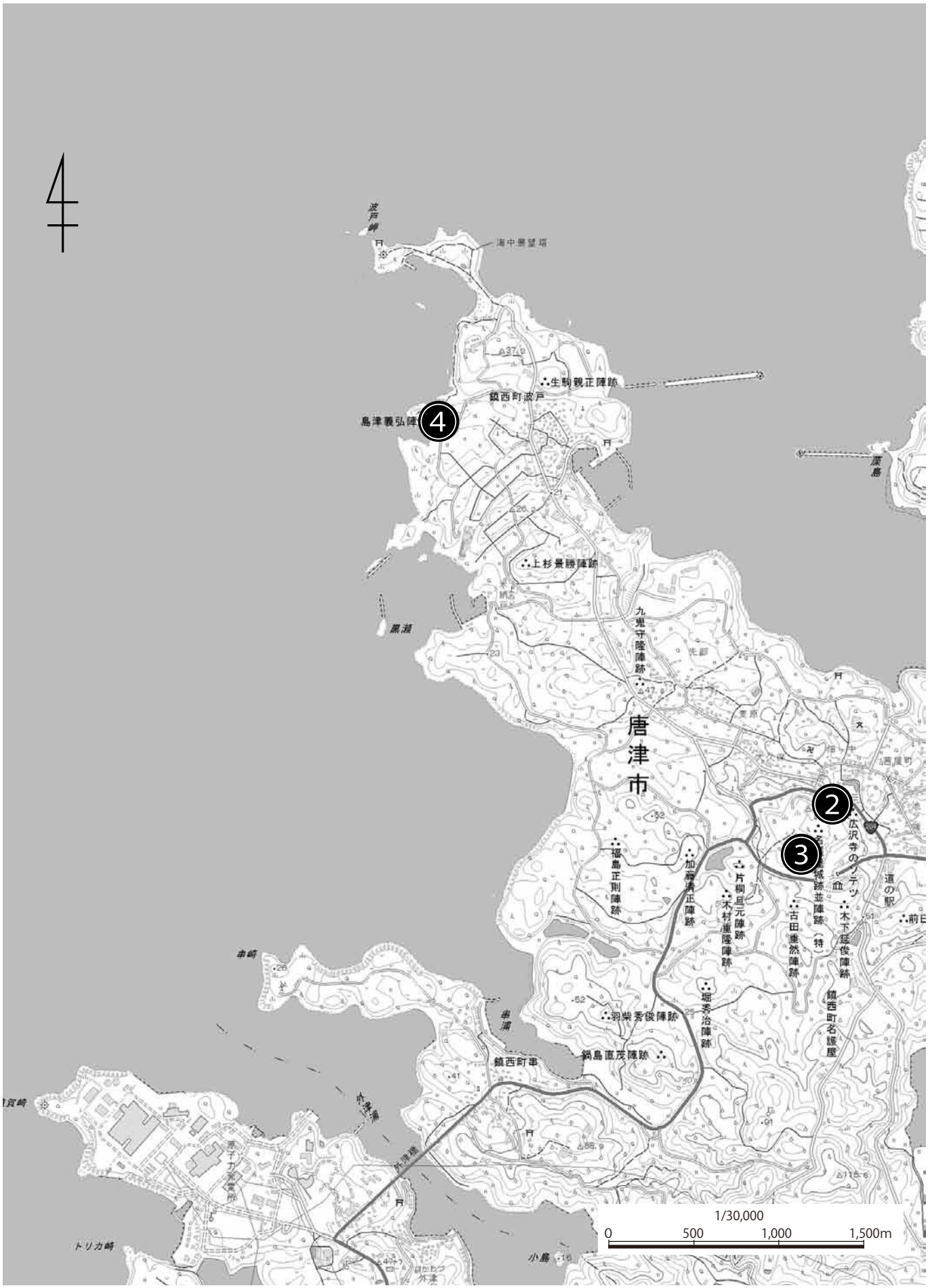
種類	名称及び員数 指定等年月日	所在地 所有者等	概要
県 重 要 文化財 有形文化財 （考古資料）	石磯道遺跡出土石器接合資料　　７個体 令和３年５月11日告示	唐津市 唐津市教育委員会	本資料は、長崎県松浦市の星鹿半島で産出する牟田産黒曜石を原石として小口部分から一方向に剥片剥離を行い、定形的な縦長剥片（石刃）を連続的に剥離する磯道技法（石刃技法）の標識資料である。また、石核にナイフ形石器や台形石器等が接合しており、原石から素材剥片を剥離し、その素材剥片に加工を施して製品になる全ての工程が把握でき、西北九州における後期旧石器時代の石器製作技術が明確に分かる。特に、石刃技法は後期旧石器時代の指標となる代表的な剥片剥離技術であり、石器製作技術の進化を考えるうえで重要である。

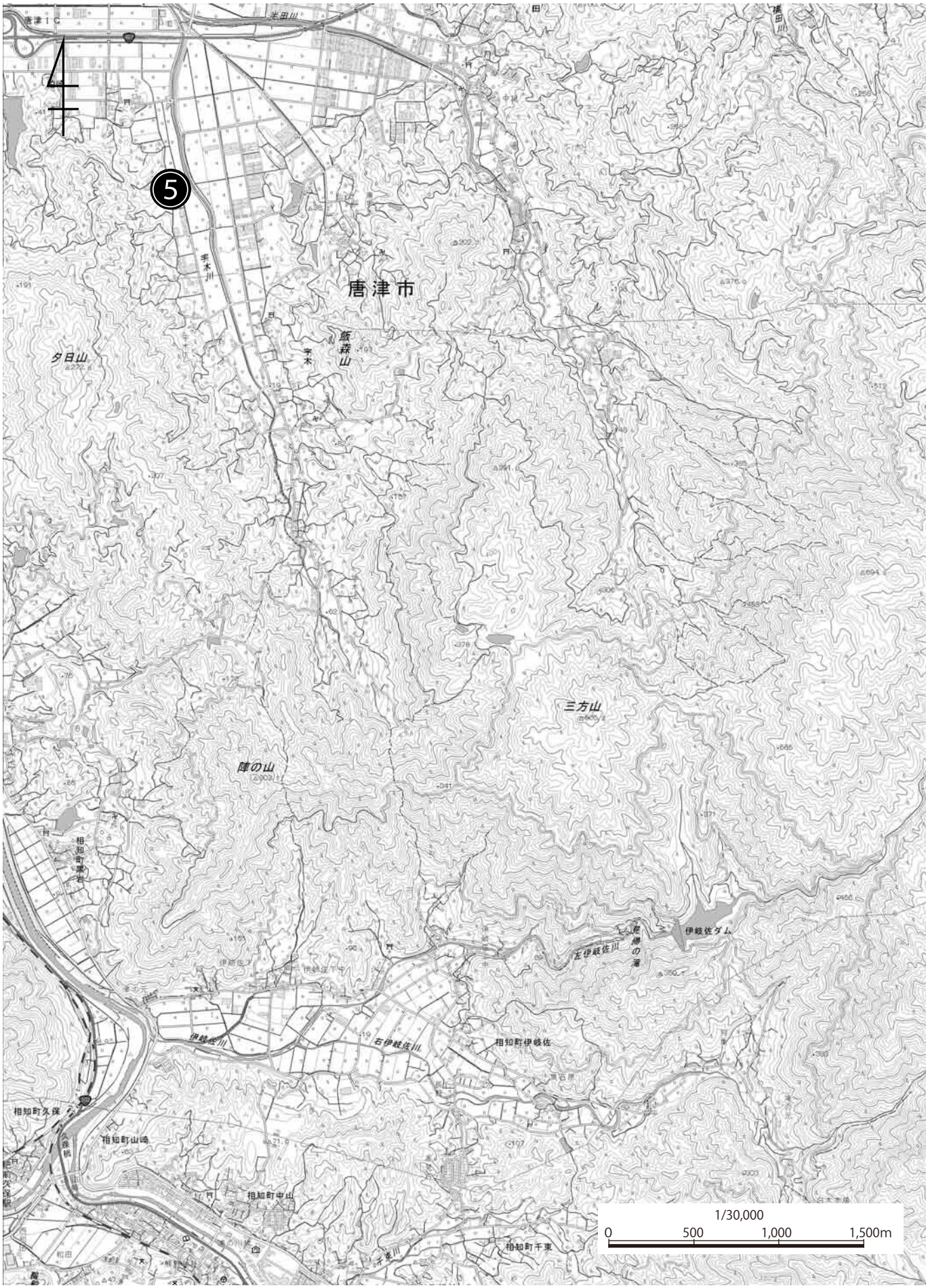
4　所載遺跡位置図

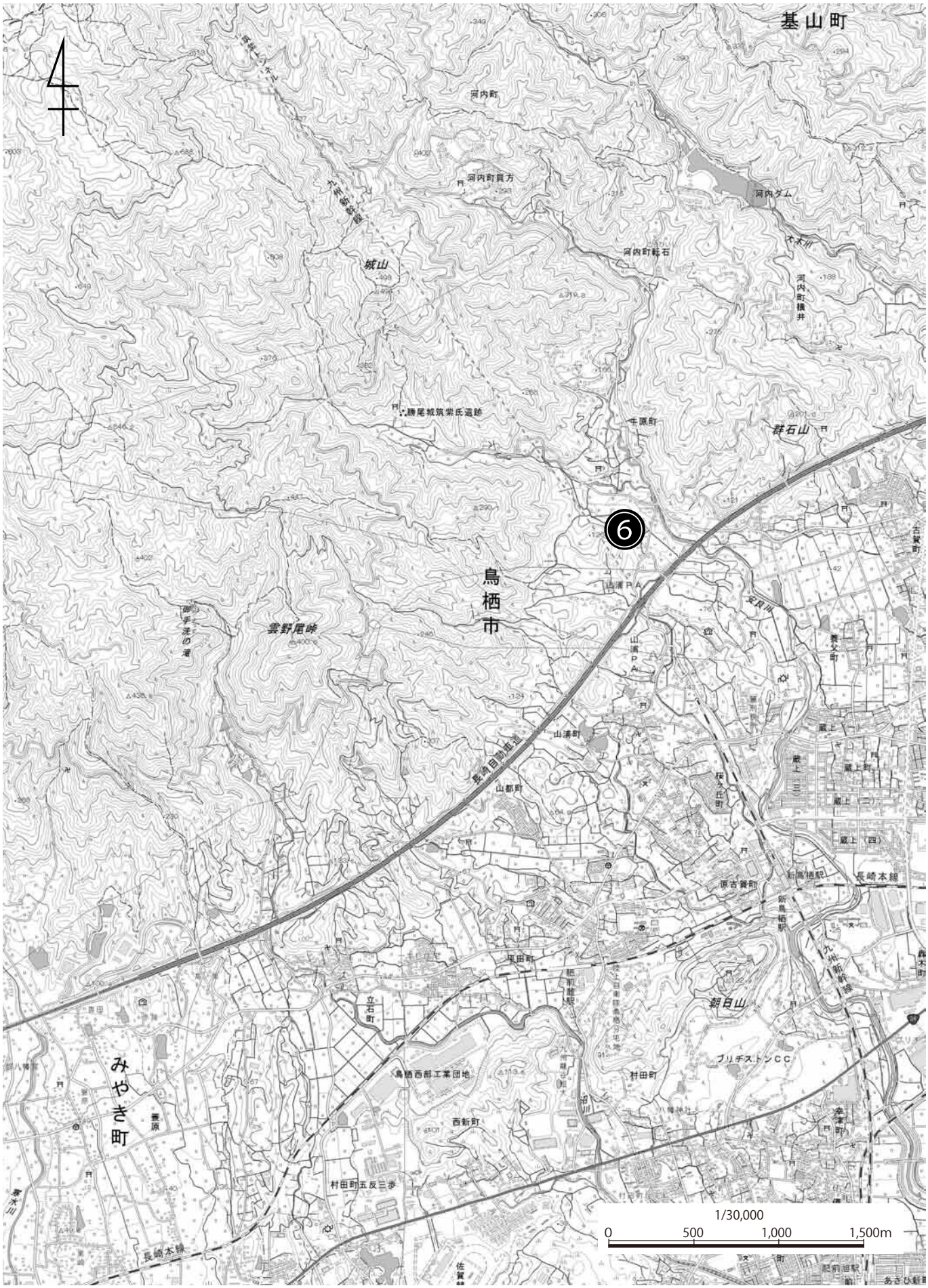
図中の丸数字は、本書 22 頁から掲載した各遺跡に付した番号に対応している。

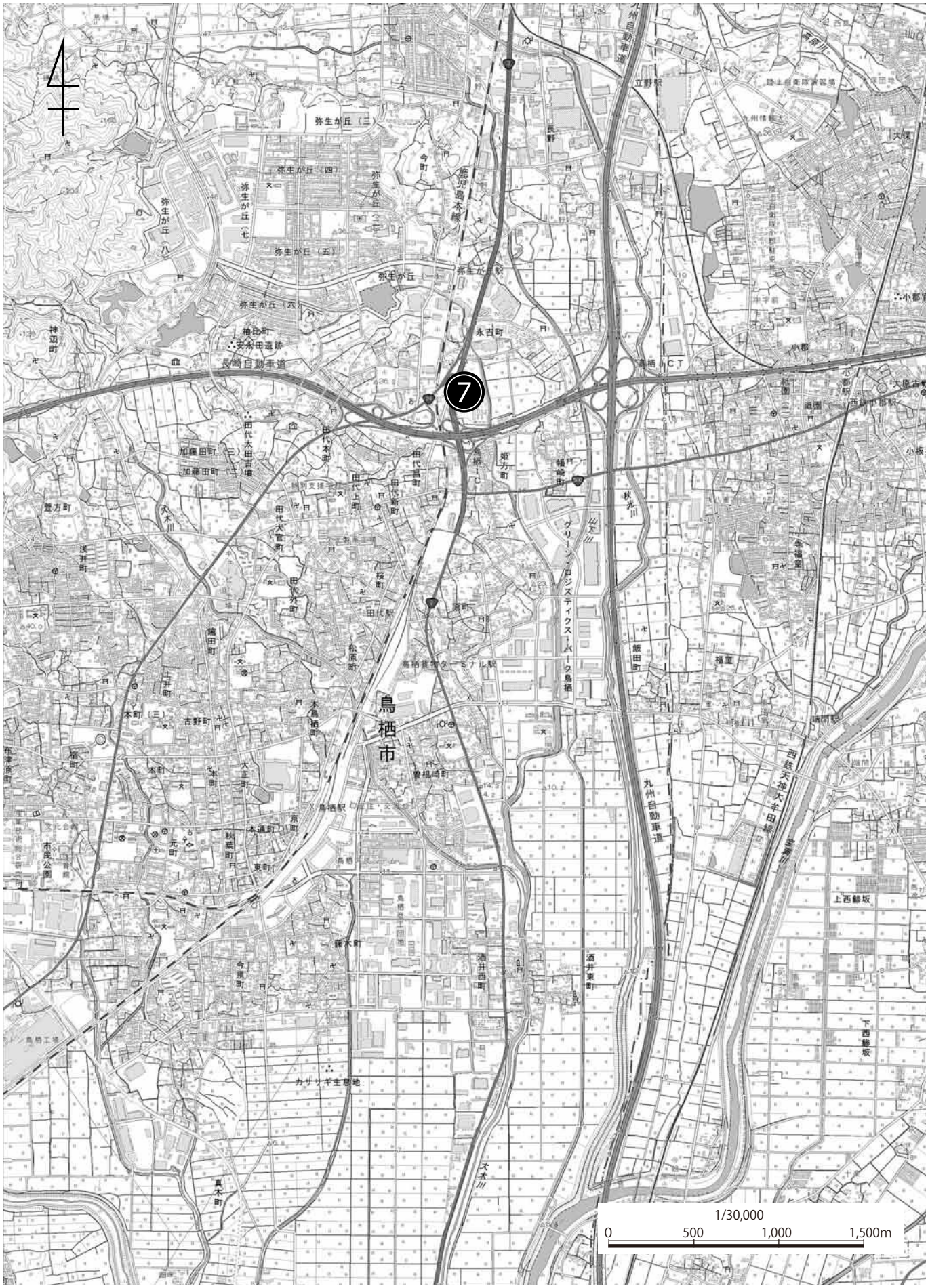


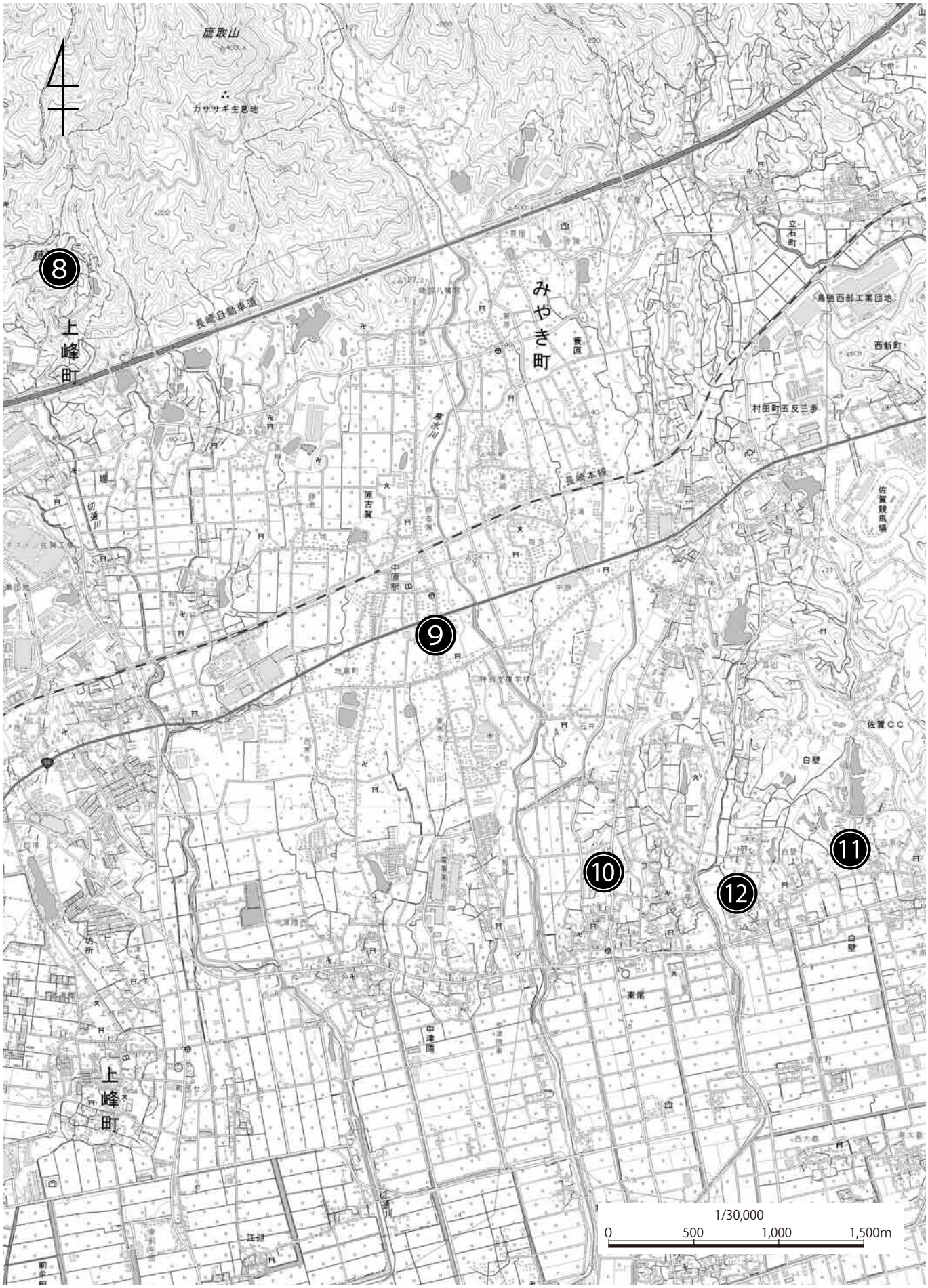
4


波戸崎
海中展望塔
生駒親正陣跡
鎮西町波戸
島津義弘陣
4
上杉景勝陣跡
黒瀬
九鬼守隆陣跡
唐津市
2
3
広沢寺のソテツ
福島正則陣跡
加藤清正陣跡
片桐且元陣跡
木村重隆陣跡
古田重然陣跡
木下延俊陣跡
道の駅
串崎
串浦
羽柴秀俊陣跡
堀秀治陣跡
鍋島直茂陣跡
鎮西町串
鎮西町名護屋
外津浦
トリカ崎
小島
1/30,000
0
500
1,000
1,500m


⑤
唐津市
夕日山
三方山
陣の山
伊岐佐ダム
相知町伊岐佐
相知町久保
相知町山崎
相知町中山
相知町千束
1/30,000
0
500
1,000
1,500m


4
基山町
河内町
河内町貝方
河内ダム
河内町転石
城山
河内町横井
勝尾城筑紫氏遺跡
牛原町
群石山
⑥
鳥栖市
山浦PA
雲野尾峠
御手洗の滝
山浦町
長崎自動車道
山都町
桜ヶ丘町
蔵上
蔵上町
蔵上（四）
養父町
古賀町
原古賀町
新鳥栖駅
長崎本線
九州新幹線
平田町
朝日山
立石町
みやき町
鳥栖西部工業団地
プリヂストンCC
村田町
西新町
村田町五反三歩
長崎本線
1/30,000
0
500
1,000
1,500m


⑦
鳥栖市
長崎自動車道
九州自動車道
鹿児島本線
鳥栖駅
田代駅
鳥栖貨物ターミナル駅
鳥栖ICT
立野駅
弥生が丘駅
小郡駅
西鉄天神大牟田線
カササギ生息地
1/30,000
0
500
1,000
1,500m


鹿取山
カザサギ生息地
8
上峰町
長崎自動車道
みやき町
長崎本線
9
10
11
12
上峰町
1/30,000
0
500
1,000
1,500m

佐賀県文化財年報 17（2021 年度）

発行年月日　令和 5 年（2023 年）3 月 31 日

発　行　佐賀県 地域交流部 文化・観光局

文化課 文化財保護室

〒 840 － 8570　佐賀県佐賀市城内一丁目 1 番 59 号

TEL　（0952）25 － 7232　　FAX　（0952）25 － 7321